

別冊 I メイト便り第 22 号

I メイト交流の愉しみ

特集 — I メイト交流と私の気づき —

NPO 法人 アジアの新しい風

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414

HP : <http://www.npo-asia.org>

E-mail : new-wind2006@npo-asia.org

2026 年 9 月 20 日 発行

目 次

まえがき	副理事長 奥山 寿子	・ ・ 3
1、 I メイト交流		
＜清華大学＞		
川口 祐子⇔李 祉月		・ ・ 4
広瀬 亮 ⇔張 子月		・ ・ 6
河野 美希⇔金 煜然		・ ・ 8
＜タマサート大学＞		
原谷 洋美⇔トンマー・パンポノット		・ ・ 10
内田めぐみ⇔チャラナポーン・セエンアルン		・ ・ 12
＜貿易大学＞		
高井 宏子⇔チャン・ティ・フエン・アイン		・ ・ 14
＜パジャジャラン大学＞		
中山 真理⇔ルメンタ・マルガレス・マヌルン		・ ・ 16
吉岡 京子⇔アイシャ・ハヌル・マシャ・アリ		・ ・ 18
＜架け橋グループ（清華大学大学院）＞		
浮田 輝彦⇔陳 彦楷		・ ・ 20
山田 稔 ⇔白 一蘭		・ ・ 22
＜ハノイ工科大学＞		
島村 美智⇔ホ・スアン・ハイ		・ ・ 24
2、 I メイト交流と私の気づき		
・ 貿易大学 OG	グエン・ミン・ジャン	・ ・ 26
・ 清華大学 OG	雷 雅然	・ ・ 27
・ 貿易大学 OG	レー・グエン・トウエツ・ゴック	・ ・ 28
・ 貿易大学 OG	カオ・トウエット・ニュン	・ ・ 29
・ 清華大学 OG	王 隽淇	・ ・ 30
・ 貿易大学 OG	レ・ティ・フォン	・ ・ 31
・ 清華大学院 OG	ジャン・ミャオ	・ ・ 32
・ タマサート大学 OG	ジンダー・ペッパイリン	・ ・ 33
・ 貿易大学 OG	レ・ゴック・トウイ	・ ・ 34
・ タマサート大学 OG	ニムサクン・スットプラータナー	・ ・ 35

会員

・千歩 和人	・ ・ 36
・大石 純	・ ・ 36
・石橋 順子	・ ・ 37
・含本 一雄	・ ・ 38
・斎藤 利治	・ ・ 39

3、交流の多様化

おしゃべりの場

<貿易大学>

谷口由紀子⇄グエン・ディン・ギア・ハン	・ ・ 40
---------------------	--------

小林 俊介⇄チュー・ティ・トゥイ	・ ・ 41
------------------	--------

<パジャジャラン大学>

富平 茂 ⇄カリスタ・アルデリア・ファウスティナ	・ ・ 42
--------------------------	--------

タイ・タークロン市との交流

アジ風顧問	タサニー・メーターピスィット	・ ・ 44
-------	----------------	--------

タマサート大学		
東アジア研究所	ワンニサー・ワイチャイー	・ ・ 45

訪問団代表	カンラヤラット・トーンロン	・ ・ 45
-------	---------------	--------

正会員	戸田 敦	・ ・ 46
-----	------	--------

交流写真	・ ・ 47
------	--------

4、編集後記

名誉顧問	上 高子
理事	小林 玲子
正会員	原谷 洋美

終戦 81 年を迎えた日に

副理事長 奥山 寿子

今年も 8 月が巡ってきました。広島と長崎の原爆忌、そして終戦の日——この時期になると、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて思い起こします。私を含め戦後生まれの団塊の世代が後期高齢者となり、当時を直接知る方々が少なくなる中、毎年メディアが特集を組み、戦争の愚かさを伝え続けており、これは平和を願う日本人にとって大切な機会だと感じています。

しかし、世界では今も戦争や対立が続き、日本でも防衛費増強を求める声が高まるなど、不安を覚える状況が続いています。こうした時代だからこそ、私たち「アジアの新しい風」が掲げる理念——草の根の交流を通して相互理解を進め、アジアの平和、ひいては世界平和に貢献する——は、ますます重要になっているのではないのでしょうか。I メイト交流を通して、交流国の学生たちとの相互理解が確実に深まっていることは、平和への小さな道筋として大きな意味を持つと感じています。

今年の別冊特集は「I メイト交流と私の気づき」です。

第 1 部では、I メイト交流の様子をそれぞれのペアごとに紹介し、お互いの感想も添えていただきました。全く見知らぬ会員と学生同士が、いかに理解を進めていったかという経緯も書かれていて、それぞれのペアの雰囲気がよく伝わってきます。

第 2 部「私の気づき」では、交流を通してそれまで持っていた偏見や固定観念からどのように解放され、新しい視点を得たのかを綴っていただきました。SNS やメディアの影響が大きい時代だからこそ、実際の個人的体験と対話から生まれる気づきは重要で、どの原稿も興味深い内容でした。国や文化が違う相手と向き合うことで、自分自身の考え方が柔らかく変化していく様子が伝わってきます。

第 3 部「交流の多様化」では、SNS での会話から発展したグループ交流を紹介します。当初は日本語サポートで始まった日本人と学習者の 1 対 1 の交流が複数人へと広がり、話題も豊かになっている様子がよくわかります。

また、昨年の秋、日本人会員のタイ・タークロン市訪問、そして今年 6 月のタイからの訪問団 40 名との日本での交流会についても取り上げました。学生中心だった交流が地域へと広がり始めたことは、新しい可能性を感じさせてくれます。世代や立場、国境を越えて交流の輪が広がっていくことは、まさに「多様化」の象徴と言えるでしょう。

最後に、今回の特集にご寄稿くださった皆様に心より感謝申し上げます。皆さんの言葉が次の交流へ向かう力となり、平和への小さな一歩を支えるものになることを願っています。

(2026 年 8 月 15 日記す)

I メイト 交流

積極的な行動力と相手を気遣う優しさ

川口 祐子

私は今までずっと清華大学の学生としか I メイト交流をしていませんでした。前の 5 人も同じ清華生とは言え、年を追う毎に日本人がイメージする中国人からかけ離れてきていると感じていたの、6 人目になる李さんはどんな現代っ子なんだろうと楽しみでした。そしてついに届いた初めてのメールからは、活き活きした可愛らしい子というイメージが浮かびました。また李さんは趣味がたくさんありますが、「ストリートダンスやローラースケート、水泳」が好きというところで行動的な印象も持ちました。しかしその反面、河南省の博物館について教えてくれたり等、動の部分だけでなく静の部分も持ち合わせていると感じられました。



李さんと初めて対面で会ったのは、清華大学の研修日本旅行の時でした。その時のアジ風の対面交流会は残念ながら私は参加できなかったのですが、日を改めて会う約束をしました。李さんと李さんの同じ寮のお友達 3 人も一緒でした。李さんはイメージ通りハキハキとした物怖じしない女の子でした。お友達が一緒だった事もありお互い緊張しないですぐに打ち解けられたと思います。私に対する時とお友達に対する時とあまり変わらなかったので飾らない人柄を感じました。

その後、李さんがお祖母様と来日される時があり、ご一緒に上野散策、大学訪問に出かけたことがありました。お祖母様は私の拙い中国語にも耳を傾けてくださり、そういう優しさが李さんに受け継がれていると思いました。積極的な行動力と相手を気遣う優しさを持っている李さんと交流できて、とても嬉しいです。

言葉の壁を忘れさせてくれる交流

李 祉月

参加前、私は日本語を学び始めてまだ 1 年で、日本の方と交流した経験ありませんでした。そのため、教科書上のイメージから距離感を感じて緊張していました。でも、川口さんからの最初のメールで、ご家族や趣味のお話を読み、すっかり安心したのを覚えています。私の学生生活にも興味を持って聞いてくださり、年上だからといって気を遣わせない、とても話しやすい方だなと感じました。今メールを読み返すと、学習歴 1 年で必死だった私に対し、不自然な日本語を優しく直してくださった細やかな気配りに、改めて感謝でいっぱいです。右も左もわからない私を温かく受け入れてくださった大切な思い出です。



初めてお会いしたのは鎌倉でした。少し緊張していましたが、実際にお会いするとメールの印象通り、本当に気さくで親しみやすい方でした。川口さんはいつもお出かけのプランを立てるのがとてもお上手で、この時も待ち合わせの案内から美味しい「しらすピザ」のお店まで、楽しくスムーズにリードしてくださり、とても頼もしかったです。当時の私は日本語がまだ不十分でしたが、根気よく話に耳を傾けてくださったおかげで、言葉

の壁を忘れてすぐに打ち解けることができました。

その後、祖母と一緒に来日した際も、言葉の通じない祖母に一生懸命中国語で話しかけて場を和ませてくださいました。いつも細やかに予定をアレンジし、相手の状況に合わせて自然な気遣いをしてくださる川口さんと交流を持てたことを、心から嬉しく思っています。

李 → 川口

2025 年 12 月 31 日

2025 年もいよいよ最後の日ですね。実は今日全ての期末試験が終わりました。今はもう、やっと終わった～！という解放感でいっぱいです。明日からは気分転換に上海へ遊びに行ってきます。川口さんはお正月はどのように過ごされる予定ですか？

川口 → 李

期末試験、お疲れ様でした。明日から上海！良いですね。私のお正月は東京です。特に旅行などの計画もないのですが、初詣に行ってきます。

李 → 川口

初詣、いいですね。来年は日本に行くので再来年の初詣は私も関東で迎えられるんだなあ～と思うと、今からとても楽しみです。

李 → 川口

2026 年 2 月 16 日

今日、春節を過ごすために父の実家に帰省しました。こちらは雪が降っていて、とても綺麗ですよ。春節おめでとうございます。

川口 → 李

雪が綺麗ですね。先週、東京でも降りましたが止んだらすぐに溶けてしまいました。春節休暇楽しんでくださいね。今晚は餃子に春晚でしょうか？过年好！

李 → 川口

过年好！はい、今夜は家族と餃子を食べて、春晚を見る予定です。まさに中国の大晦日ですね！川口さんも素敵な一週間をお過ごしください。

李 → 川口

5 月 10 日

少し感動したことがあったのでシェアさせてください。昨日、北京でメイディ（五月天）のライブに行ってきました。行く前は彼らのことをあまりよく知らなかったが、パフォーマンスが素晴らしくて見終わった後、ファンになってしまいました。川口さんが以前ライブが見れなかったと仰っていたのを思い出して、今度チャンスがあれば絶対に一緒に行きましょうね！

川口 → 李

ライブに行けたんですね！良いなあ、良いなあ。李さんもファンになってくれて嬉しいです。チャンスがあればぜひ一緒にライブ行きたいですね。

李 → 川口

6 月 30 日

ご報告なのですが、先日大学を卒業しました。学校生活が終わるのは少し寂しいですが、10 月からはいよいよ日本での生活が始まります。日本でお会いできるのが今からとても楽しみです。

川口 → 李

ご卒業おめでとうございます。就職に向けていろいろと忙しいと思いますが、のんびりするのも大事ですね。また東京で会いましょう！

自分も若返った気分で

広瀬 亮

I メイトの張さんとの交流は、メールから始まり、その後に WeChat を使用したメッセージや写真での交流になり、8 月から WeChat でのビデオ通話も始めました。内容も、お互いの趣味や日頃の生活の話から張さんの将来的な話など多岐なものになってきました。当初は、海外の大学生と何を話そうかと心配でしたが、実際に交流を始めると、色々な話ができて、とても有意義なものになっています。また、張さんの大学生活や将来的な話をするうちに自分の大学時代や会社での生活を思い出し、自分も若返った気分で楽しんでいます。張さんは聡明なうえにとても色々なことに前向きで、私も非常に刺激を受けています。本当に交流をして良かったなと思います。



唯一の心配事は、現在の日中関係です。張さんには、今後も日本とのつながりを持ってもらいたいので、早く気楽に日本への旅行や留学ができる状況になってほしいと思います。

ビデオ通話で会話力が UP !

張 子月

去年、「アジアの新しい風」の I メイト活動に参加し、広瀬さんと交流を始めました。最初は言葉や文化の違いがあって、うまくコミュニケーションができるか心配でした。でも、広瀬さんはとても親しみやすい方で、すぐに緊張がほぐれました。

私たちは日常の小さなことから、好きなスポーツ、中日の大学入試の違い、お互いの旅行の話など、さまざまな話題で交流しています。その中で、日本と中国の文化の違いや共通点について理解が深まりました。また、広瀬さんの大学時代の経験や勤務先の IBM での仕事の話も伺えて、広瀬さんをより深く知ることができて、嬉しかったです。交流の中で何度も励ましてもらって、とても勉強になりました。



最近ではビデオ通話でも交流するようになりました。文字のやり取りと違って、直接声を聞いて話すことで、日本語の会話力も鍛えられていると感じます。これからも交流を続けていきたいです。広瀬さんに出会えて、本当に感謝しています。

張 → 広瀬

2026 年 4 月 22 日

広瀬さん、返信が遅れてすみません。今週は中間テストがたくさんあって、少し忙しかった…でも、何とかテストをやり過ごせて、嬉しい 😊。桜がとてもきれいに咲いていますね、本当に素敵です！もうすぐメーデー（労働節）ですね。今回の休みはちょうど清華大学の創立記念日と重なっていて、キャンパス内も賑わってきたようです。ところで中国の労働節は通常 5 連休ですが、日本ではどうですか？

広瀬 → 張

4 月 23 日

張さん、中間テスト、お疲れさまでした。良きにつけ悪きにつけ、学生時代は試験がつきものですね。日本ではメーデー（5/1）は祝日ではないのですが、4/29 と 5/3、5/4、5/5 が祝日なので土日を含めて連休になります（ゴールデンウィークと呼ばれています）。今年は、5/2 が土曜なので、殆どの方は 5/2-5/6 の 5 連休になります。旅行する人などは、前後の 4/30、5/1、5/7、5/8 などに休暇をとって、長期休暇にする人もいます。私みたいに働いていない人は、連休はどこも混むので、近場でおとなしくしています。

張 → 広瀬

4 月 28 日

楽しく生活し、色々なことを体験できるというのは、もう十分素晴らしいことだと思いますね。ゴールデンウィークの連休については、私も広瀬さんの同じ考えです。中国では、ネットで少しでも有名な場所はどこも人でいっぱいになるので、正直、本当に困ります。それから私は家で過ごすつもりです。その中で 1～2 日ほど時間を作って、母と一緒に人の少ない場所へドライブに行こうと思っています。（久しく運転していないので、運転の練習もしたい 😊）

広瀬 → 張

4 月 29 日

張さんの休みの過ごし方は正解ですね。混雑しているところに行っても疲れるだけで、休みの意味をなさないですね。運転は、間が開きすぎると勘が鈍るので時間があれば練習は大事です。私は大学 1 年の時に免許をとって、2 年の夏休みに 1 週間くらいかけて、高校時代の友人と車で北海道を一周しました。当時は本州と北海道間は道路も線路も繋がってなかったので、青函連絡船というフェリーに車を積んで北海道に渡りました。宿はユースホテルという学生向きの安い宿でしたが、大自然や食事など十分に楽しみました。懐かしい思い出です。

若者から良い刺激「私も頑張ろう！」

河野 美希

2025年10月から金焜然さん(Cup)とIメイト交流が始まりました。Cupさんからのメールは、自然な日本語と丁寧さと温かみが合わさった文で、いつも感心させられます。機知に富んだ豊かな表現を読むと、日本人であり、言葉を扱う仕事をしている私でさえ、思わず感嘆してしまうほどです。よく考えて送ってくれているのだと感じます。

共通の趣味のサッカーや音楽の話をしたり、大学の話、地元のことも教えてくれます。Wechatでも繋がっているのも、メールで書いてくれたことをWechatに投稿した写真などでフォローするとさらにイメージが湧いてきます。

Cupさんと交流を始めて、中国をより近くに感じるようになりましたし、将来に向けて一生懸命学業と活動に励んでいるCupさんから良い刺激をもらって「私も頑張ろう！」という気持ちにさせてもらっています。私にあげられる刺激は正直少ないですが、日々の交流を通して、何でも話せる日本の友達（どちらかというと母ですが）のように感じてもらえたら嬉しいです、日本をより深く知って、親しみを感じてもらえたらこの上なく幸せです。この交流を大切にしていきたいと思います。



直接「ありがとう」と伝えたい

金 焜然（愛称：Cup）

アジ風の「Iメイト」を通じて、東京に住む美希さんと出会いました。最初は緊張していましたが、すぐに毎週のメールが待ち遠しい関係になりました。私たちの交流は言語学習にとどまりません。李栄浩の音楽や、私が大学でドラムを叩いたライブ映像を共有すると、美希さんは家族のように喜んでくれました。ワールドカップの時期には、時差を越えてサッカーの話題で熱狂しました。

最も心に残っているのは、お互いの悩みを共有し、支え合ったことです。私が友人関係で深く傷ついていた時、美希さんは「仲違いも成長。時間が一番の薬」と励ましてくれました。一方、息子さんの留学での悩みを打ち明けてくれた時は、私も自分のことのように心配し、良い知らせを共に喜びました。日本の生活を知り、日本語が上達しただけでなく、国境や世代を越えて無条件に気遣い合える絆を得たことが最大の収穫です。美希さんの優しさで、この機会をくれたアジ風に心から感謝しています。

語学力はいつか錆びてしまうかもしれませんが、この交流で得た温かさは一生の宝物です。卒業後は必ず東京へ行き、直接「ありがとう」と伝えたいです。この文集を通じて、海を越えた真心の交流の素晴らしさが多くの人に伝わることを願っています。



Cup → 美希

2025 年 11 月

試験が終わったあとは、私も友達と打ち上げをして、カラオケにも行きました。私は歌うことが好きで、日本のバンドでは RADWIMPS が一番好きです。少し前に、歌手の BENI さんが中国の番組に出ていて、とても印象に残りました。

音楽といえば、私の尊敬する歌手をご紹介します。中国の一線歌手の李榮浩というアーティストです。私は彼の「才能」に強く惹かれています。というのも、作詞・作曲・歌唱だけでなく、ギター、ベース、録音、ミキシング、コーラス、マスタリングなど、一連の工程をすべて一人でこなすことができるからです。コンサートでも一度の公演で六〜七種類の楽器を演奏します。美希さんや息子さんは、日本ではどんな歌手がお好きですか。

美希 → Cup

11 月

Cup さんは歌も歌うのですね！！歌の大会はどうでしたか？？私も音楽が大好きです。日本の曲（「邦楽（ほうがく）と言います」）も、海外の曲もよく聴きます。Cup さんが歌う RADWIMPS をいつか聴いてみたいです。早速、Cup さんおすすめの李榮浩（Li Ronghao）さんの曲を聴いてみました。優しくて、心地よいメロディと声ですね 🍷 六、七種類の楽器もできて、曲作りも全てできるなんて、すごい！まさに、天才ですね。「中国の一線歌手」というのは、「第一線で活躍している歌手」という意味でしょうか。これから李榮浩さんに注目したいと思います、素敵な歌手を教えてくださいありがとうございます！

美希 → Cup

2026 年 3 月

先日の「アジ風新春交流会」では、清華大学から、関さんが歌を歌ってくださって、張さんと趙さんが大学内を動画で見せてくださいました。初めて清華大学の天文台や、理数学部の校舎、博物館、体育館などを見ました。やっぱりすばらしい校舎ですね！大学の中で Cup さんの一番のお気に入りの場所はどこですか？

Cup → 美希

4 月

美希さんに質問された「大学で一番好きな場所」ですが、私は「紫荊グラウンド」（私たちは「紫操」と呼んでいます）が一番好きです。夜になると、ここはとても自由な場所になります。運動する人、音楽を持ってきて歌う人、芝生でボードゲームをする人、中にはお酒を準備して友達と小酌を楽しむ人もいます。去年の夏、ここで親友と朝の 4 時まで語り合ったことは、大学生活で最高の思い出の一つです。

好きこそ物の上手なれ

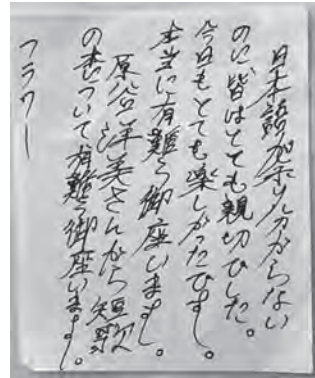
原谷 洋美

「本当はドイツ語を専攻したかったけれどスコアが足りず日本語にしました」。「日本語はとても面白いですよ。ぜひ好きになってくださいね」。素直なフラワーくんと交流はお互いの趣味であるテニスのラリーのように始まった。

「岩手県八幡平に語学研修に行くので一緒にテニスをしませんか」と誘いのメール。結局テニスは実現せず、帰国当日に綾瀬の古い喫茶店で会うことにしたがそれも叶わず仕舞い。背の高い、髪の毛の長い若者が店内を見まわしていた、と店主から聞いてなんと申し訳なく残念な事をしたかと、その時は携帯電話を持たぬ化石の我が身を悔いた。

漢字が美しく好きだと日本語への関心が芽生えていた彼に、タマサート訪問団の奥山寿子さんに2冊の歌集を託した。するとなんと、訪問交流会への感想は漢字で書かれていた。その後の交流は漢字や敬語を駆使し俳句を詠んで、私の方がそんなに慌てないでじっくり学んだ方が良く、と消極的。しかし、好きこそ物の上手なれ、はその通りで、若い感覚は鋭く新鮮でしかも素直なので若芽はぐんぐん伸びる。

Zoom 会で会うフラワーくんは自分で運転する車の中でテニスウェアの爽やかな好青年。文武両道のこれからが楽しみである。



私の日本詩歌の師匠

トンマー・ポンパノット (愛称：フラワー)

日本語を学び始めた頃から今までの私をずっと見て下さった人といえば、洋美さんもその一人です。私がまだ日本語を学び始めたばかりだったにもかかわらず、洋美さんはそのことを気にすることなく、やり取りを続けて下さいました。

去年、日本でお会い出来なかったのは残念でした。もし渋谷にいた時、綾瀬に帰る前にメールをチェックしていたら、洋美さんにお会い出来たのと思うと、今でも残念です。日本でお会い出来なくても、今は Zoom でお会い出来ます。洋美さんとは、文字でのやり取りだけではなく、直接お話出来るのが本当に嬉しいです。

以前は、話す話題は普通のことが多かったのですが、私が日本の詩歌に興味を持ち、少しずつ深く学び始めてから、話す話題も変わってきました。私が俳句を詠んでみてから、いつも洋美さんから文法や語彙などをチェックして頂いています。洋美さんのご指導のおかげで、日本の詩歌がだんだん分かるようになりました。しかし、このまま止まることなく、これからもたくさんの詩歌を詠みながら、日本語を学んでいくつもりです。

最後に、これは、この感想を詠んだ最初の短歌です。

「ひさかたの浮き雲白み陽光は春来るとく明かく輝く」フラワー
返歌

「わたつみの豊旗雲に君を見し綾に言の葉織り上ぐる君」ひろみ



フラワー → 洋美

2026年3月2日

日本語文章の授業で先生は学生達に一つの俳句を詠ませました。しかし、私は四つを詠みたいのでございます。これは一番目の夏の俳句でございます。

「小雨降る 青い紫陽花 花を呼ぶ」

此の俳句の靈感は去年に日本で綺麗な花を見ました。小雨が降った時紫陽花の谷に居たと言う意味で、「花を呼ぶ」とは青い紫陽花が私を呼んだと言う意味でございます。

洋美 → フラワー

3月5日

4つの俳句を詠む、とは春夏秋冬の四季の句ですね、すばらしい試みです。フラワーくんの句は説明を読まなくてもよ～～く判ります。綺麗です。

「花を呼ぶ 青き紫陽花 小雨かな」と添削しました。これはどう思いますか？

名詞の紫陽花の前の形容詞は、文語の連体形にしました。赤い夕陽＝赤き夕日もそうです。「小雨かな」の「かな」は俳句や短歌でも使う詠嘆詞でなんと風景の良い小雨だなあ～～！！の感じかな。フラワーくんの俳句は、自分の目できっちり捉えた風景を心に写していますね。俳句や短歌は、言いたいことを削っていくのがコツです。例えば「小雨降る」は、雨は降るのが当たり前だから、思い切って降るを削ってしまうとかね。

フラワー → 洋美

5月8日

「望月夜 咲かんと欲す 山桜」春の俳句では、「望月夜」をまず置き、其の後に、「山桜」を置きます。大きな景から次第に小さな一点へ焦点を寄せる構成を試みました。これまでの俳句から、私なりに理解致しましたことを申し上げます。

① 俳句では、名詞を繋ぐ助詞「の」を省く事が多い。例えば、「小雨谷」は「小雨」と「谷」のような表現。

② 自然を表す語には、動詞を添える必要がなく、例えば、「小雨」は、其れだけで雨の降る情景が伝わるので、「降る」は必要ない。

③ 大きな景色から焦点を絞っていき、具体的な対象にスポットを当ててイメージをふくらます。

洋美 → フラワー

5月21日

春の俳句と、フラワーくんが理解し学び取った俳句の定石、読みました。鋭いですね。俳句も短歌も文章も、どのようにそぎ落としていくかが文学の真髄です。俳句はその頂点ですね。

春の俳句「望月夜 咲かんと欲す 山桜」今までの集大成のように詠まれていて、とても良いとおもいます。唯、俳句にも短歌にも読み下した時の流れ（息の続きかた＝日本文学は縦書きになります）が求められますので、「望月に咲かんと欲す山桜」にすると、山桜までが滞る（停滞する）ことなく自然に流れます。「望月に」でも満月の夜は想像できて、余韻が残ります。余韻は大切ですよ。

これで四季が揃いましたね。凄い！凄い！！フラワーくんの感性と学習能力に感服。

春：「望月に咲かんと欲す山桜」

夏：「花を呼ぶ青き紫陽花小雨かな」

秋：「鳥の舞う青き瀧壺藤袴」 → 「鳥の舞う滝壺青し藤袴」青を入れ替えました。

冬：「山茶花や藍き星空静かなる」

ホンヨックさんとの素敵な出会い

内田めぐみ

タマサート大学のチャラナポーン・セエンアルンさん(愛称:ホンヨック)と交流を始めて、もうすぐ1年になります。私自身、以前タイに住んでいたことがあり、あの温かい人々の笑顔や、活気あふれる市場の風景、そして美味しい料理の数々が今でも忘れられません。タイという国が大好きな私にとって、ホンヨックさんとの出会いは特別な意味を持っています。

ホンヨックさんは、とてもかわいらしく、明るく素直な学生です。そして何より、勉強熱心で、日本語を一生懸命学ぼうとする姿勢には、いつも感心させられています。週に一回 ZOOM でおしゃべりをする中で、一つ一つの言葉を大切にしながら、自分の気持ちを日本語で真摯に伝えようとする姿には、本当に頭が下がります。大好きなタイの友人ができ、より一層タイが好きになりました。ホンヨックさんにも、日本を好きになってもらえたら嬉しいです。

これからもホンヨックさんの日本語の上達を楽しみにしながら、いろいろな話をしていきたいと思います。そして、いつか日本で、あるいは大好きなタイの地で直接会って、一緒に楽しい時間を過ごせたら嬉しいです。この出会いを大切に、これからも交流を続けていきたいと思っています。



めぐみさんとの素敵な出会い

チャラナポーン・セエンアルン (愛称:ホンヨック)

以前、私は日本語を話す機会があまりなく、4年ぐらい日本語を勉強していてもまだ片言でしか話せませんでした。そのため、先生から I メイトの活動のお知らせを知ってから応募しました。そこから、素晴らしい出会いが始まりました。

めぐみさんはとても優しく、明るい人です。去年からめぐみさんと週に一回 Zoom でいろいろなことについて話しています。最初は緊張して、うまく話せるかどうか、とても心配でしたが、めぐみさんはいつも笑顔で話してくれて、私が伝えたいことをゆっくり聞いてくれました。いつの間にか落ち着いて話せるようになりました。それから、日本語を話すことが怖いと思っていた私もだんだん日本語に慣れてきて、毎週めぐみさんと楽しくおしゃべりするようになりました。日本語の練習はもちろん、日本の旅行や文化についても学ぶことができ、とても嬉しいです。おかげで、もっと日本語の勉強を頑張りたいと思うようになりました。

私はずっと日本が好きでしたが、以前は具体的な目的はほとんどありませんでした。しかし、めぐみさんと出会ってから、日本にもっと触れてみたいと思うようになりました。そのため、大学4年間のうちに留学することを目指しています。その時が来たら、ぜひめぐみさんに会って、一緒に時間を過ごしたいです。

内田： あ、こんにちは！サワディーカー。

ホンヨック：サワディーカー。

内田： ホンヨックさんは 8 月から 2 年生になりましたね。（タマサート大学は 8 月から学年が切り替わるそうです）新入生の歓迎会はどうでしたか？

ホンヨック：はい。わたしには役割があったんです。準備をする役割で、それが大変でした。友達は休みの間、大学に残らない人が多いので、残っている人で準備をしました。わたしはアルバイトがあるので、残りました。

内田： 歓迎会では何をしますか？

ホンヨック：音楽をやりました。わたしはドラムをやりました。

内田： ドラムですか！すごい！どんな音楽を演奏しましたか？

ホンヨック：面白い音楽です。タイの昔の音楽です。

内田： ルークトウンとか？（タイの国民的演歌歌謡。ハイテンポで楽しい曲が多い）

ホンヨック：そうです。そんな感じの音楽です。

内田： すごい！イベントだけでなく、パフォーマンスもするのね。前に見たタイのドラマ「2 gether」みたい。（タイの大学生活を描いたドラマ。日本でも放送された）

ホンヨック：知っていますか？そうです。

内田： かっていいですね。でも、音楽の練習は大変でしたね。

ホンヨック：ドラムはそんなに難しくないと思っていました。でも、やると難しかったです。

内田： よく頑張りましたね。お疲れさまでした。

内田： タイはもうすぐ、母の日ですね。タイはこの日をとても大切にしますね。

ホンヨック：はいそうです。8 月 12 日で前の国王の奥さんの誕生日です。

内田： タイにいるとき、8 月になると街に水色のリボンの飾りがたくさんありました。とてもきれいでした。チャトラムー（タイの有名なカフェ）では水色のミルクティーを飲みました。アンチャン（バタフライピー）のお茶ですね。色がきれいでおいしかったです。

ホンヨック：シリキット王妃の色です。生まれた曜日の色で、青は金曜日の色です。

内田： 母の日は何かしますか？

ホンヨック：おばあさんと呼んで、母といっしょに食事をします。

内田： お母さんのお母さんですか？

ホンヨック：そうです。

内田： 素敵ですね。おばあさん、きっと喜ぶますね。

ホンヨック：子供のころは、小学校にお母さんと呼んで、プレゼントをあげたりしました。

内田： 日本の母の日も同じですね。日本はお花をあげます。

ホンヨック：日本の母の日はいつですか？

内田： 5 月の第 2 日曜日です。

人のご縁のありがたさ

高井 宏子

残業時間中に、たまたま「働く女性交流会～講演：アジ風奥山副理事長～」のFAXを目にしたことでアインさんとの交流に繋がり、人のご縁のありがたさを感じています。

チャン・ティ・フエン・アインさんと2025年10月から交流を始めました。Iメイトがアインさんに決まった時は、とても嬉しく交流が楽しみでした。

いざ、交流を始めると実際の日本語力のイメージが湧かない、メールのやり取りの間隔もどうしよう。十分理解している漢字をひらがなで書いて失礼だったかも、楽しみだったはずの交流がいつの間にか心配へと急旋回しました。

それでも、コーディネーターの方や先輩会員の方々から助言をいただき、一つひとつ心配ごとを解決し、交流を重ねることができました。交流を振り返る中で、自分のことを自分のことばで伝えることの難しさに気づきました。相手と自分の違いを認識し楽しむためにも、自分自身を知ることが大切だと感じています。

いつも、丁寧で心のこもったことばを交わすアインさん、ぜひお会いできたらと思っています。



<いけばな作品>

普段の生活を伝え合うことから始める

チャン・ティ・フエン・アイン

高井さんとのIメイト交流を始めた時、私は日本人の方と日本語でメールをすることに少し緊張していました。しかし、高井さんはいつも温かいメールを送ってくださり、少しずつやり取りが楽しみになりました。旅行や季節の行事、料理やお菓子など、普段の生活についていろいろなお話をしてくださいます。私は高井さんのお話を通して、日本の文化だけでなく、日本での暮らしや日常についても知ることができました。私も大学生生活や普段の生活について話し、お互いの日常を伝え合うことで、少しずつ親しみを感じるようになりました。

この交流を通して、文化交流は特別なことについて話すだけではなく、普段の生活を伝え合うことから始まるのだと感じました。また、自分の経験を日本語で伝えることも大切な勉強になりました。これからも高井さんとの交流を大切にしていきたいです。



<旅行先で>

高井 → アイン

2025 年 10 月 25 日

アインさん、こんにちは。ハノイに住んでいるんですね。

アインさんは、東京のどんなことが気になりますか？趣味は何ですか？私は、いけばなを習っています。

アイン → 高井

10 月 27 日

高井さん、こんにちは。

今は貿易大学で勉強しています。日本語は難しいですが、頑張っています。最近、東京のラーメンの味が気になっています。ラーメンが一番おいしいと思うので、ベトナムでも一週間に一回食べに行きます。友達は「東京のラーメンはしょっぱい」と言っていました。本当でしょうか。特に中国の映画が好きです。魅力的だと思います。最近勉強が忙しくて、映画を見る時間が取れません。高井さんはどんな映画が好きですか。

高井 → アイン

2026 年 5 月 10 日

アインさん、こんにちは。日本では大型連休があり、私は山種美術館に行きました。どの作品も花を題材にした日本画になります。美術館内は百花繚乱で素敵でした。アインさんは、美術館は好きですか。どうぞご自愛ください。

アイン → 高井

6 月 19 日

高井さん、おはようございます。

山種美術館に行かれたのですね。花を題材にした日本画はとてもきれいそうです。私も美術館は好きですが、最近大学の試験が近く、勉強で忙しいです。最近のベトナムはとても暑いです。日本はいかがですか。

高井 → アイン

7 月 15 日

先日、出かけた時に、猫をモチーフにしたおまんじゅうを買いました。私は 30 年ぐらい前に猫を飼っていたので、猫グッズには目がありません。日本では、2 月 22 日は猫の日といわれています。「ニャーニャーニャー」という猫の鳴き声が由来のようです。テレビ番組で終日猫特集が放送されたり、イベントが開催されたりしています。ベトナムの夏はとても暑そうですが、ご自愛ください。

アイン → 高井

7 月 30 日

高井さん、メールをありがとうございます。

猫のおまんじゅうのお話、とても面白かったです。2 月 22 日が「猫の日」だということを初めて知りました。実は、私の家では猫を 3 匹飼っています。三毛猫、白猫、白黒猫が 1 匹ずついます。それだけでなく、犬も飼っています。毎日にぎやかで、いつも癒やされています。夏休みには、家族と一緒にクアンビン省へ旅行に行きました。夜行バスで行ったので、朝 4 時ごろに着きました。砂丘へ行ったり、海を見たり、海鮮料理を食べたりしました。高井さんはこの夏休みにどこかへお出かけになりましたか。ぜひお話を聞かせてください。

質問されて日本文化の再発見

中山 真理

エタさんとの交流は 2024 年 11 月に始まりました。エタさんの日本語は交流を始めた当初からとても丁寧で言葉の選び方が上手だなと感じていました。最近はずっと語彙も表現力も向上しているので日本語を勉強中の学生さんということをついつい忘れてしまいそうになるくらいです。

やり取りの中では、普段の日常の出来事からわたしの推し活の話からエタさんの国のインドネシアの文化や風習についてなど、話題がつきることなく楽しく交流をしています。検索すれば簡単に情報を入手できるものもありますが、実際に住んでいる方からではないと得られない情報などもあり、大変ありがたく思っています。また、日本のことについてエタさんから質問を受けることも多く、正しく伝えるために自分でも改めて調べる機会が増えました。身近な日本の文化や習慣を再発見でき、とても良い勉強になっています。

エタさんの文章は丁寧な中にも親しみやすさがあって、メッセージを読むたび心が和みます。そして、エタさんは先日大学を卒業されました。おめでとうございます！

I メイトとしての交流はひとまず終了となりますが、これからも今までと変わらず交流を続けさせていただけたら嬉しいです。



同じアーティストのファン

ルメンタ・マルガレス・マヌルン（愛称：エタ）

2024 年の年末から、真理子さんの I メイトになりました。気がつけば、もうすぐ 2 年になります。この間、オンラインではありますが、真理子さんと一緒に時間を過ごし、知り合えたことを嬉しく思っています。最初は少し緊張して、何を話せばいいのか分からないこともありましたが、でも、何度かメッセージをやり取りするうちに、だんだん緊張もなくなり、自然に話せるようになりました。そして、まさか同じアーティストが好きだとは思っていませんでした。同じファン同士で好きなアーティストについて話せるのがとても楽しいです。真理子さんの話を聞いたり、私自身の経験を話したりするのも楽しいです。真理子さんとの会話を通して、日常や好きなことをもっと知ることができたのも嬉しかったです。いつか一緒にどこかへ出かけられたら、きっと楽しいだろうと思います。

この経験は、私にとってとても大切なものです。違う国で暮らす人と、何気ない会話を通してお互いを知ることができたのは、貴重で心に残る経験でした。真理子さんの言葉にはいつも温かい気持ちにさせてもらっています。これからもこの素敵な関係が続いていけばいいなと思っています。



中山 → エタ

2026 年 5 月

エタさん、こんばんは！ 日本は5月の初めにゴールデンウィークと呼ばれる連休があるので、今、連休が終わってしまって悲しいです。

そういえば、先日、これを食べました。普通の辛さのようで、チリソースがついていましたが、思っていたより辛くなかったです！食べやすい味でおいしかったです。2種類売っていて、これともう一つはこれより辛いらしいので、次は辛い方を買ってみようと思います。

エタ → 中山

真理子さん、こんにちは！

ゴールデンウィークのこと、聞いたことがあります。はい、質問です 🤔 ♀ 毎年期間や祝日の並びは同じなんですか。それとも年によって何か違いがあったりするのでしょうか。真理子さんがこの連休中、どんな風に過ごしたのかも気になります～

わぁ！インドミーのミーゴレン 私もずいぶん長いこと食べていないです。日本の人の口にも合ったみたいで良かったです～ちなみに、もう一つの種類というのはどの味ですか？インドネシア国内向けのもものと、日本（海外）輸出向けのもので味が少し違うと聞いたことがあるので、私も味比べをしてみたくなりました。

実は先週、いところと一緒にジョグジャカルタ（ジョグジャ）へ行ってきました！観光地をいくつか巡ったり、ご当地グルメを食べたりしました。ジョグジャへ行くのは3年ぶりだったのですが、ちょうど連休中ということもあって、



どこもたくさん観光客で賑わっていました。ジョグジャに行くなら絶対に外せない観光地が2つあります。それが「メラピ山」と「プランバナン寺院」です。メラピ山は今も活動している活火山で、天気良ければとても綺麗な山の姿が見られるのですが、昨日は曇り空だったので山頂があまり見えませんでした。もう一つのプランバナン寺院は、インドネシア最大級のヒンドゥー教寺院の遺跡群で、ユネスコの世界遺産にも登録されています。写真を撮ったので送りますね！

真ん中にある一番大きなお堂（寺院）が、シヴァ神を祀る「シヴァ聖堂」です。

中山 → エタ

エタさん、こんばんは！

ゴールデンウィークは下記の祝日で構成されています。

4/29 昭和の日、5/3 憲法記念日、5/4 みどりの日、5/5 こどもの日、どれかが日曜日だと翌日の月曜日は振替休日でお休みになります。なので毎年ちょっと違います

実はここ数年、ゴールデンウィークを使って入院して手術をしていたので、ゴールデンウィーク中は入院しているか自宅安静していましたが、今年は久しぶりに入院や自宅安静をしていないゴールデンウィークでした。趣味でやっているバレエのお稽古に行ったり、近所にできた新しいショッピングモールに買い物に行ったりしました。あとは、今年は友人が入院してしまったので、お見舞いに行ったりもしました。

インドネシアに無知だった私

吉岡 京子

2025 年の 4 月から、パジャジャラン大学の Aisha Hanum Masyaさんと私は I メイト交流を始めましたが、5 月中頃から LINE でのメール交換に切り替えました。理由は、Hanum さんの日本に関する広範囲への興味に間違っただけで答えてはいけませんので、深く知りたいことはネットで検索してもらって、私は日常生活の中での身近な話題を伝えるようなサポートに徹しました。

そして、昨年 10 月、Hanum さんが「湘南プログラム」（バンドン市と湘南地域の青少年文化交流）に参加して平塚市に来る事になり、思いもかけず Hanum さんに直接会える機会を得て、パジャジャラン大学から参加された学生の方々の数名と一緒に昼食を取りながらの楽しいおしゃべり時間を過ごし、一挙にインドネシアとの距離が近くなった感じがしました。

さらに今年の 4 月からは、アジ風が設定してくださった Hanum さん、Etha さん、タケダさん、樋口さんとの Zoom での会話練習も加わり、皆さんとの会話を通して、私は今までインドネシアをほとんど知らない状態だったと気づき、地図を開き、島々の位置の把握し、相互の距離を確認し、8 月のバンドンの朝が 15℃であることを聞いては、日本の上高地並ではないですか？バンドンは熱帯雨林気候ではなかったのですねと自らの無知に驚いている状態です。

60 年前に、カリフォルニア州リバーサイドのアメリカ人家庭に 2 か月間ホームステイした体験のお礼を、日本に関心のある外国の方々のお手伝いをして、少しでもお返ししたいと思って I メイト交流をお受けしておりましたが、逆に教えてもらっているのは私だどつくづく実感しております。



＜左端 吉岡さん、右端ハヌムさん＞

広がった私の世界

アイシャ・ハヌム・マシャ・アリ

アジアの新しい風のプログラムに参加した理由は自分の日本語力を上達するためです。2024 年 11 月で初めて吉岡京子さんからメールが届いて、I メイト交流を始めましたが、どうしても自分の日本語の自信がなくて、最初は機械翻訳でメールを書きました。読みづらい日本語で

書いても、返事が遅い私にとって吉岡さんはいつも優しくしてくれて、感動をしました。そして、2025年5月にLINE交換に切り替えて、もっと軽い会話をすることができました。

その時から時間が経って、2025年の10月、「湘南プログラム」という短期文化交流プログラムで日本にきました。吉岡さんと直接会いました。私と日本でインターンシップをする大学の友達に吉岡さんは食事を奢ってくれて、小田原城に連れて行ってくれました。緊張をしましたが、吉岡さんと一緒に時間を過ごしたり、小田原城の歴史を教えてくれたり、とても嬉しい一日でした。日本に来て吉岡さんと直接会えて良かったです。

自分の日本語力、特に、日本語の会話はまだ足りないと思ったから、今年の4月でアジ風の会話練習プログラムに参加し始めました。アジ風の吉岡さん、タケダさん、樋口さん、大学の友達Ethaさんと、毎週会話練習をしています。吉岡さんはとても素敵で優しい方ですから、完璧な日本語を使っているかどうかは構わず、それで私も心配せずに楽しい会話をすることができました。

他の言語を学ぶことはとても素敵なことだと思います。他の言語を勉強するとその言語を勉強するだけではなくて、その言語の国の方の考え方や文化も学びます。日本語の勉強するおかげで他の国の方と繋がることができ、全然考え方や文化や年齢が違った方と話して、教室ではなくても、毎日勉強ができました。

I メイトとアジ風の交流を通じて、世界が広がりました。



若手研究者との楽しいやりとり

浮田 輝彦

陳さんとは、2025 年 10 月のマッチングから交流がスタートしました。修士課程の学生なので、とても忙しいと思っていましたが、月に 2 回程度、E-mail で、意見や身の回りのできごとの情報交換が続いています。

もともと日本語はあまり得意ではなさそうなので、英語を主体にやりとりすることにしました。ただ日本語にも慣れてもらうために、英文＋日本語でのメッセージにしています。私は、日本語をまず書いて、ネットの翻訳機能も使って、英語を組み立てています。陳さんも同じ構成でメッセージを送ってくれています。

やり取りを通じて、お互いの考え方や性格をだいたい深くまで知ることができました。陳さんは几帳面でまじめ、また細やか性格で、感心させられる指摘も多くありました。話題としては、身の回りのできごとや、研究テーマである A I についての意見交換など、面白い話を交わすことができました。日本文化についての紹介はあまりできませんでしたが、日本に興味を感じるきっかけがもっとあればよかったと思います。

今年の秋から日本での留学が始まります。これからは、実際に会うことができるので、彼の日本への視野をさらに広げられたらと楽しみにしています。



山川異域、風月同天（国は違えど、繋がる想い）

陳 彦楷

浮田さんとのやり取りは、日本への留学に向けて、有意義なものとなっています。単なる留学の実務的なやりとりにとどまらずに、研究や新しい技術といった話題から、天気、旅行、食事、そして日本語学習に至るまで、私たちは互いの生活の様々な側面を少しずつ共有してきました。

A I と材料科学の研究に取り組む学生として、特に A I に関する議論は大変興味深いものでした。AI は既存のデータを強力に学習できる反面、真に未知の現象に直面した際には、やはり人間が可能性を想像し、新たな仮説を提示する能力が必要だという点を議論しました。若手研究者である私にとって、この考え方は大きな励みになり、深く思索を促されるものでした。

やり取りには、身近な話題もたくさんあります。浮田さんは、神奈川の暑い夏や地元の食べ物について話してくれました。私はハイキングや山が好きなので、日本の自然や各地の様子を特に楽しみにしています。こうした交流を通じて、日本という国は、かつてはネット上の情報などを通じて表面的に知るだけでしたが、今では生身の人間の日々の体験や思い出と結びついた場所へと、私の中で少しずつ変化してきました。

日本に到着した後も、メールのやり取りにとどまらず交流を続け、私自身の体験についても浮田さんとさらに分かち合えることを願っております。（陳さんの英語原文から浮田が抄訳）



浮田 → 陳

2025 年 12 月 15 日

I traveled to Okinawa at the end of November. I visited Okinawa and nearby southern islands on a cruise ship. It was my first experience on a cruise ship, so it was very exciting and fun.

Traveling is a good way to change our mood. Mr. Chen, do you travel often?

私は、11 月末に沖縄に旅行してきました。クルーズ船で沖縄と近くの南の島を訪れました。クルーズ船は初めてだったので面白かったです。

旅行は、気分転換にいいですよ。陳さんは、旅行はよく行きますか？

陳 → 浮田

12 月 17 日

I really love traveling—especially hiking and mountain climbing—and I have already made an early plan to climb Mt. Fuji.

私は旅行が大好きで、特にハイキングや登山が好きです。富士山登山の計画も早めに立てていて、楽しみにしています。

浮田 → 陳

2026 年 1 月 18 日

New Year's is over in Japan and daily life has resumed as normal.

Is your research going smoothly, Chen-San? Please tell me about student lives these days. I'm looking forward to it.

日本は、お正月も終わって、通常の生活がスタートしています。

陳さんの研究は、順調に進んでいますか？ 最近の学生生活の様子なども教えてください。楽しみにしています。

陳 → 浮田

1 月 23 日

As for my research, thankfully it has been progressing quite smoothly recently. I have been working on machine learning and deep learning topics, I am also writing a paper based on this work, and the writing is moving forward steadily.

There are always challenges, but I am learning a lot through the process.

私の研究についてですが、おかげさまで現在は比較的順調に進んでいます。最近では機械学習・深層学習を用いたテーマに取り組んで論文原稿の執筆も並行しており、少しずつ形になってきました。うまくいかないこともありますが、試行錯誤しながら前進しています。

浮田 → 陳

2 月 4 日

Today is the day marking the beginning of spring "立春 (risshun)" according to the calendar. In Japan, "立春" is fixed as February 4th.

I'm glad to hear that Mr. Chen's research is progressing smoothly. Preparing high-quality training data is likely to be difficult when applying AI, but I hope you will persevere and keep working at it.

今日は立春（りっしゅん）といわれる日で、暦の上では春になります。日本では、立春は2月4日に固定されています。陳さんの研究は順調のようなので、よかったです。AIを応用するには、良質の学習データを準備するのが大変だと思いますが、辛抱強く取り組んでいてください。

エネルギーな白君

山田 稔

架け橋グループのメイトとの交流は、私がアジ風の会員になってから4人になります。東京科学大学に留学の1年間に会う機会があるので、他のメイトとの交流より密で会話を通した交流が出来るので楽しさが倍増します。

中でも白君はとても活動的で、研究生活の傍ら、日本の東西南北を駆け巡り、各地の自然や名所・アニメの舞台になった場所を直接訪れ、今までのメイトの中で最も留学生活を楽しみ、日本の風土・文化に親しみ、理解を深めた学生さんです。

論文提出を無事に終了し、帰国までに富士山登山・沖縄旅行も計画中和聞きました。地球温暖化で日本の夏も猛暑から酷暑日が増えているので健康と安全に留意して、どんどん日本の良いところを体験して欲しいと思っています。

郷土の歌手・竹内まりあさんの「命の歌」が大好きです。中でも『この星の片隅で、巡り会えた奇跡は、どんな宝石よりも、大切な宝物』の言葉が大好きです。10年前の最初とその次のメイトさんとは今でも交流が続き、時々近況を確かめ合っています。白君ともこれから先も交流が長く続く事を願っています。



皆さんの温かさを感じるたくさんの交流

白 一蘭

Iメイトの皆さん、ありがとうございました。私はIメイトの交流活動に参加できて、とても嬉しかったです。まず、神戸での交流では、阪神・淡路大震災について、たくさんの知識や経験を学びました。地震が起きた時にどうすればいいか、何を準備すればいいかも教えていただき、とても勉強になりました。そのあとの知識活動も面白かったです。新春交流会では、たくさんの新しい友達ができました。皆さんが優しく話しかけてくださったので、各地からの投稿動画を楽しみました。秩父での山登りの活動にも参加しました。山頂まではちょっと疲れちゃったけど、きれいな景色をたくさん見ることができました。山を登りながら皆さんと話したことも、とても楽しい思い出です。また、皇居の散歩もとても嬉しかったです。きれいな紅葉を見ながら、皆さんと一緒に歩くことができました。その後、神楽坂のおいしい料理も楽しみました。

そして、最初に鎌倉で温かく迎えてくださった山田さん、本当にありがとうございました。また、コーディネータの小山さんにはいつも親切にいただき、いろいろな活動でお世話になりました。どの活動もとても楽しく、皆さんの温かさを感じました。私の日本語はまだ上手ではありませんが、皆さんがゆっくり話してくださり、とても嬉しかったです。Iメイトの皆さんにも、いつもたくさん助けていただき、心から感謝しています。これからも皆さんとのご縁を大切にしたいです。またお会いできる日を楽しみにしています。

白 → 山田

2025 年 8 月 1 日

おはようございます。鎌倉での一日は、おかげさまで素晴らしい思い出になりました！（八幡宮、長谷寺、大仏様、鎌倉高校前の美しい景色）。同行した彼女も「おじいちゃんと一緒に楽しかった！」と大変喜んでおりました。台風の接近とアラスカの地震は心配ですね。どうか無理なさらず、お身体に気をつけてください。

山田 → 白

10 月 10 日

やっと涼しい日が訪れています。日本の生活に慣れて来ましたか？何か分からない事や困った事はありますか？

白 → 山田

10 月 10 日

確かに最近涼しくなりました。今朝はちょっと寒いと感じましたね。この 20 日間、色々な新しい事がありました。北京ではタクシーと自転車をよく使いました。でも東京で電車に乗って学校に通っています（ちょっと疲れた。でも痩せられます）。研究室での仕事も順調になりました。今困っている事は食事の事です。住居の周辺や学校近辺のレストランで食べています。カレーライスやラーメンは好きですが、食べ過ぎるとつまらなくなりました。何かおすすめの昼ご飯、夜ご飯はありますか？

山田 → 白

10 月 10 日

日本には世界の色々な食べ物のお店があります。自分が好きな食べ物を探してみると楽しいのでは？スーパーには冷凍食品が沢山あります。味も良くなっているので電子レンジがあれば 5 分位ですぐに食べられます。

白 → 山田

11 月 21 日

秋になり紅葉を見たいですが、テレビで熊が東京の周りの森や山でよく出没するのを見て、ちょっと怖いです。でも賑やかな高尾山なら大丈夫ですね。ところで山田のおじいさんは元気でしょうか？

山田 → 白

11 月 22 日

7 月に転んだ時に肩を痛め、まだ少し痛いですが元気にテニスもしています。白君は元気ですね。横浜・横須賀・神戸など沢山の場所に行っていますね！日本はどうですか？

白 → 山田

11 月 22 日

どこでもきれいですね。渋谷と新宿は賑やかで人が多いですが、山の中は景色が素晴らしく、自然が溢れています。クラスや研究室の友達もみんな優しいです。日常生活は便利です。駅の周りにいろんな店があるんですね。でも米や野菜の価格が高く、これほどとは思いませんでした。とにかくとても満足しています。まだまだ楽しみたいと思います。

ホ・スアン・ハイと知り合えて良かった

島村 美智

ホ・スアン・ハイさんとの交流は、まず驚きから始まった。最初のメールは短いものだったが、とても丁寧で気持ちのこもった文面だった。メールから Zoom に切り替え、毎週 1 回 30 分の交流が定着したが、画面からは真面目そうな表情の裏に、優しい家族思いの面、他人への心遣いなどが伺えて、ほっとした気持ちになることが何度かあった。好奇心が旺盛で、出前講座もチャレンジし、疑似面接にも参加した。講師や面接官、貿易大学の学生達のヘルプにも、刺激を受けたようだ。「貿易大学の学生さんは、噂通り、すごいですね」と意味深な発言も漏らしていた。



連休の時に、友人たちとバイクで山へ行く計画をしていたので、次の授業を 2 週間先に約束した。そして当日を迎えたが、彼が Zoom に入ってこない。珍しいこともあるのだなと、メールで連絡をしたが返信がない。バイクで出かけているし、事故ではないと思うが、病気かしらと、次々と不安がわいてきて、小関事務局長経由で、ハノイ工科大学の先生に問い合わせた。結果は、楽しすぎて、メールチェックを忘れてしまったとの事で、本当にほっとした。すぐに謝りのメールが送られてきたが、気にかけてくれたことへの感謝の念が伝わる暖かいものだった。ハイ君と知り合えて、本当に良かったと思う。

I メイト交流が日常生活の一部に

ホ・スアン・ハイ

島村さんとお話しする機会をいただけたことは、日本の文化や人々、自然、そして言語への理解を深めるうえで、私にとってかけがえのない貴重な経験となりました。その過程で、私はメールで複雑な言葉や文章を組み立てるのがあまり得意ではないことに気づきました。伝えたい思いがあっても、言葉にできず、翻訳ツールに頼りすぎるのもいいことではありません。島村さんがいつも暖かくメールを受け止め、返信して下さったことに心から感謝しています。



そのうち、毎週 1 回、様々な話題について語り合う時間が、いつの間にか私の日常生活の一部となっていました。長きにわたる歴史や豊かな自然、そして自分の国とは異なる食文化など、それらの日本を感じられるようになりました。そしてなによりありがたかったのは、言語とは教科書の中にあるものではなく、この経験を通じて、自分の小さな視野から一歩踏み出し、世界をもっと見てみたいという思いが強くなると同時に、ベトナムの文化も決して他の国に負けていないのだと実感しました。

I メイトへの参加、そして島村さんとの出会いがなければ、受験教育では決して得られないこの貴重な学びにはたどり着けなかったと感じています。

ハノイ工科大学のホ・スアン・ハイ君との交流

2025 年 12 月 7 日	初メール。丁寧な言葉遣いが印象に残る。
2025 年 12 月 28 日	Zoom 開始。 好きな食べ物、来年 7 月 N2 を目指したい事、山登りをやってみたい等、 語ってくれる。色々あったけど良い一年だったとも。
2026 年 1 月 10 日	少し風邪気味。ギターをやりたいそう。
2026 年 1 月 17 日	日々の小さな幸せが大事と。テトの紹介。
2026 年 1 月 31 日	川端康成『雪国』冒頭部を読み、話し合う。
2026 年 2 月 7 日	吉本ばなな『キッチン』一部読む。
2026 年 2 月 14 日	村上春樹『ノルウエーの森』一部読む。
2026 年 3 月 1 日	東野圭吾『マスカレード・イブ』一部読む。
2026 年 3 月 22 日	夏目漱石『こころ』冒頭部読む。
2026 年 3 月 28 日	宮沢賢治『雨ニモマケズ』全文読む。
2026 年 4 月 11 日	宮沢賢治『銀河鉄道の夜』一部読む。
2026 年 4 月 19 日	江戸時代についての紹介。
2026 年 5 月 17 日	鎖国について。
2026 年 5 月 24 日	中本寧氏 就活セミナーに参加。
2026 年 5 月 31 日	中本寧氏 就活セミナーに参加。
2026 年 6 月 14 日	日本の四季の花について紹介。
2026 年 7 月 11 日	日本の食べ物の紹介。
2026 年 7 月 18 日	ベトナムの食べ物の紹介。
2026 年 7 月 26 日	和服の素材、染、織、用途について紹介。

最初は、自己紹介、最近の出来事などを話題にしていた。日本語の聞き取り、表現力が予想以上だったので、小説の有名な冒頭部分、人気作家の小説の一部などを引用して音読し、分からない表現などを検討、またどのように感じるか感想を語ってもらった。

やがてハイ君から、江戸時代のことを知りたいと提案があり、江戸の話の後、鎖国のことをもっと知りたいと、話題が広がっていった。

次は何をやりたい？と聞くと、どんどん希望を出してくれて、四季の花、和服の素材など、意外な提案も出て、準備をするこちら、楽しい時間となった。ハイ君からのベトナムの食べ物の紹介も、ありきたりではなく、新しい情報をたくさん与えてもらった。

言葉を選びながら、適切に表現しようとする態度は、実に好ましく、また力が入りすぎるのではなく自然体で話していると感じる。30 分の短い Zoom でも、十分に意見交換ができ、毎日が楽しみとなっている。

I メイト交流と私の気づき・OBOG

お互いの違いを知って理解し学び合う

グエン・ミン・ジャン

アジ風歴2年 貿易大学出身

ハノイ在住

元Iメイト 浅山 久美子さん

Iメイトに参加する前は、自分よりずっと年上の日本の方々と、こんなに長く交流することになるとは思っていませんでした。私はベトナムの学生で、皆さんとは年齢も国籍も、これまでの経験も違います。そのため最初は世代も文化も生活環境も異なる私たちが、どんなことを話し、どんなことを共有できるのだろうと少し考えていました。

ところが、実際に何度もお話をするうちに、世代の違いがあるからこそ、交流がより面白くなるのだと感じるようになりました。育ってきた時代や経験が違えば、同じ出来事でも、物事の見方や考え方が異なることがあります。皆さんの話を聞いていると、今まで当たり前だと思っていたことを別の角度から考えられることがありました。一方で、私がベトナムでの生活や今の若い世代の考え方について話すことで、皆さんにも若い世代の考え方を知ってもらえると思います。

こうした経験を通して、世代の違いをなくすために、無理に共通点を探す必要はないのだと思うようになりました。同じ話題でも、世代が違えば考え方や感じ方も違います。だからこそ、お互いの考えを聞くことで、相手のことをより深く知るだけでなく、これまで気づかなかったことにも気づくことができると思います。Iメイトでの交流を通して、世代の違いについての考え方も変わりました。以前は、仲良くなるためには、できるだけ共通点を見つけて、世代の違いを小さくすることが大切だと思っていました。しかし、実際に交流してみて気づいたのは、大切なのはその違いをなくすことではなく、それぞれの世代が持つ経験や記憶、物事の見方を知ろうとすることだということです。お互いの違いに耳を傾けることで、年齢の違いは私たちを遠ざけるものではなく、むしろ新しいことを共有し、学び合うきっかけになるのだと思います。

私にとって、Iメイト交流で得た一番大きなものは日本のことを知ることだけではありません。同じ世代でなくても、同じ経験をしていなくても、同じ考え方を持っていなくても、お互いを理解し、尊重することができるのだと気づけたことです。私たちの間に違いがあることを受け入れたからこそ、人と人が交流することの意味を少し分かるようになった気がします。



<浅山さんとの楽しい時間>

I メイトにくつがえされた日本人像

雷 雅然

アジ風歴3年 清華大学出身

東京大学大学院 第8回アジ風奨学生

元Iメイト 川口 祐子さん

日本語を学び始めた頃、私の日本に対するイメージは主にニュースやインターネットから得たものであり、無意識のうちにいくつかの固定観念を抱いていた。しかし、Iメイト交流に参加し、パートナーの川口さんと出会ったことで、そうした認識はひとつひとつ覆されていった。特に心に残っているのは、川口さんが清華大学を訪問してくれた時のことだ。事前に川口さんはお土産を持っていくと言っていたのだが、実際に会ってみて驚いた。私の想像以上の大きな袋いっぱいの抹茶のお菓子をを用意してくれていたのだ。国を越える旅で大きな荷物を持ち運ぶのは大変なことだろう。だが川口さんは、その心のこもったずっしりと重い和菓子を私のもとへ届けてくれた。驚きとともに深い感動を覚え、同時にどこか申し訳ないような気持ちも込み上げた。メディアではよく「日本人は距離感が強い」「多くは社交辞令に過ぎない」といった言説を目にし、「私たちは単なるペンパルなのだろうか」と密かに不安を抱いていた。しかし、あのズッシリと重いお菓子の袋は、言葉以上の情熱を伝えてくれた。私たちは単なる会員同士ではなく、互いに支え合える温かく本当の友人であり、まるで大きな家族やチームのような存在なのだと感じることができ、いっそうアジ風に溶け込むことができた。

その後も、アジ風のオンライン・オフライン交流会や講座などに参加した。豊富なイベントを通じて、皆様が情熱を持ち、心を込めて企画されていることが伝わってきて、胸が熱くなった。もちろん、交流で固定観念が破られたことだけではなく、時には異文化交流において配慮すべきことを学ぶ機会もあった。川口さんが清華に来られた際、翌日一緒に行動する約束をしていたが、私が10時近くのにのそのそと目を覚ますと、すでに8時過ぎに川口さんから確認メッセージが届いていた。「しまった！」と焦って飛び起きた申し訳なさは今でも忘れられない。（おかげで今では私の生活リズムもすっかり整った！）

情報が爆発的に溢れる今、私たちは断片的な報道から安易に「レッテル」を貼りがちだ。しかしアジ風での交流は、真の異文化理解とはレッテルではなく、リアルな出会いと温もりに触れることだと教えてくれた。

最後に、留学中にアジ風交流会で訪れた熊本城の一部被害を知り、一日も早い復興を祈っている。



私の固定観念を破った I メイト交流

レー・グエン・トウエツ・ゴック

アジ風歴 4 年 貿易大学出身

ハノイ在住

元 I メイト 奥山 寿子さん



遠距離の関係は、持続することが難しく、さまざまなプレッシャーにも耐えられにくい、連絡が途切れたらすぐ壊れてしまうような脆いものだ、幼い頃の私はそう考えていました。近くにいないため、会うことも話す機会も少なくなり、自然と記憶の中でお互いの存在感が少しずつ薄れていくものだと思います。そのため、関係を続けるには、常に相手を思い続け、お互いに同じ気持ちを持つ必要がありますが、それは簡単なことではありません。

また、人はそれぞれ違うので、価値観の不一致があるのは当然のことですが、遠距離の場合は、それ以前に、距離間や時差によって連絡の流れが途切れてしまい、誤解が解けるまでにさらに時間と努力が必要になります。ほかに、接点が少ないため、別々に自分の生活に合わせて考え方を変えていき、いつの間にかお互いのリズムが合わなくなることもあると思います。そうしたずれが関係に何らかの影響を与えてしまうのではないかと考えていました。以上のような理由から、そんな脆い関係の先には何も残らないと思い込み、遠距離の関係をできるだけ避けるようにしていました。

しかし、I メイト交流を始めたことで、必ずしもそうとは限らないことを教えてくれました。遠距離の関係を維持することは確かに難しいですが、大切なのは、その関係自体が人と人とのつながりであり、そしてそのつながりが、将来の何かしらの可能性へと導いてくれることです。その可能性が悪い方向に進んでしまうこともあるかもしれませんが、最初からその可能性を拒んでしまえば、その先にある経験に一生触れることができないことになると思います。

I メイト交流を始めたおかげで、実践的で親しみやすい日本語で会話する機会を得られたり、日本で楽しい交流の場に参加したり、地方の美味しい料理を食べたりすることができました。そんな一つ一つの経験は、幼い頃の私には決して想像できなかった、期待をはるかに超える思い出になっています。もし、あの頃の固定観念をずっと抱えたまま、踏み出すことを恐れていたなら、それは自分自身の可能性を自ら閉ざしてしまうことと同じなのではないでしょうか。だからこそ、これからはインターネットが普及した今の時代を活用し、国境を越えた距離があっても、一つ一つのつながりを大切にしていきたいと思っています。

仕事だけでは見えない、その人らしさ

カオ・トウエット・ニュン

アジ風歴 8年

貿易大→神戸大学卒、横浜国立大学修士課程修了

日系企業勤務 川崎市在住

元Iメイト 武田 高さん



日本に来る前、私は「日本人は仕事にとっても真面目で、仕事を何よりも大切にしている」というイメージを持っていました。朝早くから働き、遅くまで仕事をして、生活の中心は仕事なのだと思います。日本の会社で働き始めた頃、私自身も仕事を覚えることに精一杯で、周りの人とあまり話をしていませんでした。日本語にもまだ自信がなく、仕事以外のことを話すことにも少し遠慮していたと思います。そのため、当時の私にとって、同僚は「一緒に仕事をする人」という存在に近かったように思います。

しかし、何気ない会話をするようになって、少しずつ見方が変わりました。仕事以外の話をしてみると、同僚にはそれぞれ違う世界があることに気づきました。大型バイクに乗ることが好きな人、キャンプが好きな人、休日に旅行を楽しむ人など、仕事中には見えなかった趣味や楽しみを持っている人がたくさんいました。

ある日、私が「最近、うちの子がアンパンマンにハマっていて、アンパンマンミュージアムに行きたがっているんです」と話すと、同僚も子どもの好きなキャラクターについて話してくれました。そこから子育てのことや日々の出来事など、仕事とは関係のない話で盛り上がりました。こうした会話を重ねるうちに、私は「日本人も自分たちと同じなんだ」と感じるようになりました。仕事では真面目に見える人も、仕事を離れば、家族や友人がいて、趣味があり、楽しいことや悩みもある一人の人間です。

また、言葉の壁も、自分が思っていたほど大きくないと気づきました。日本語が完璧でなくても、「相手のことを知りたい」「話してみたい」という気持ちがあれば、少しずつ距離を縮めることができます。大切なのは、自分から心を開いて一歩近づいてみることだと思います。振り返ってみると、私自身も「日本人は仕事中心」という固定観念を持っていました。でも、一人ひとりと話してみること、その人の仕事以外の顔を知ることができました。

異文化交流を通して、私は相手の文化を知るだけでなく、自分自身の固定観念にも気づきました。文化の違いを恐れて閉じこめるのではなく、違いを知り、尊重し、楽しむことで、自分の世界も広がっていくのだと思います。

違いを認め合うことが 交流の始まり

王 雋淇

アジ風歴 10 年 清華大学出身

一橋大学大学院修士修了・第 3 回アジ風奨学生

在上海 ゲーム会社勤務

元 I メイト 奥山 正昭さん



I メイト交流を始めてから十年以上も経ったため、このテーマを見て振り返ってみようとする、恥ずかしながら、正直に言って具体例や細かいところをなかなか思い出せませんでした。

数日前に、駅でトイレに行って、手を洗った後にティッシュで洗面台を拭いた瞬間、以前、「どうして日本人はこのようなめんどくさいことしているか」と思ったことを今は自分もしていることに気づきました。「あ…異文化の交流は、もう自分の生活や思考の習慣になったんだなあ」と思いました。

奥山さんと I メイトになって、とてもラッキーなことに、奥山さんはちょうどそのころ、私の実家のある高校でボランティア教師をされていました。そのおかげで、私には馴染みあることをいっぱい話してくれました。「食べ物ほとんど辛い」、「冬にエアコンがなくて寒い」、「雪が降ったら断水するかもしれない」といったような、私が小さいときから慣れていたことは、奥山さんには新鮮だったそうです。逆に私の視点から見れば、奥山さんは学生さんたちを連れて、抹茶をたてたり、お菓子を作る体験をさせたりしたことは、私の「学校」や「授業」に対する印象を変えてしまい、これらのことも、ちゃんと学習の一部だなあと初めて思いました。

芸術家のアイデアがピンとくるのとは違って、自分にとっては、こうした日常茶飯事に関する会話の中で「違い」に初めて気づき、そして「自分の今まで」を見直し、自分を固定観念から解放できて、自分は他人や異文化との「違い」の中で、どのような考え方を持っているか、どう選択するかが初めてはっきりわかります。小さく言えば I メイト交流で話している日常、大きく言えば文化、歴史と政治などに関する議論、これら全ての交流は、「違い」からはじめ、特にどれが正しい、どれが優れているということはないので、最後になっても「違い」のままで終わることが多いと思います。ただし、「違い」を認識すること自体が、異文化交流の一番価値があるところではないか思います。

子育てについて、日越の違い

レ・ティ・フォン

アジ風歴 11 年 貿易大学出身

さいたま市在住 日系金融機関勤務

元 I メイト 矢野 恒子さん→奥山 寿子さん



貿易大学 2 年生の時に I メイトに参加し、当時 I メイトであった矢野恒子さんとメールのやり取りを始めました。I メイト交流をきっかけに日本とのご縁が深まり、現在は日本の会社で働きながら、日本人の夫と 5 歳の子どもと一緒に日本で毎日を過ごしています。

初めての投稿で、今まさに夢中で奮闘している「子育て」について書けたらと思います。今年の 7 月にベトナムの実家へ帰省したとき、親戚からこんな質問をされました。「ベトナムでは老後のお世話をしてもらうために子育てをする人が多いけれど、日本は施設に入ることも多いでしょう？それなら、どうして親は子どもを産むのかな？」と。実は私も母になる前は、同じような疑問を抱いていました。

しかし、日本で出産し 5 年間子どもと一緒に歩んでくる中で考え方が大きく変わりました。今の私はこう思っています。「子どもは成長していく過程で、親にたくさんの愛や幸せをくれて、もう恩をすべて返してくれているんだ」と。特にそう実感する理由が、子どもの成長がくれる毎日の感動です。赤ちゃんの頃は、ただ目の前で無垢な笑顔を見せてくれるだけで、心が平穏と幸せで満たされました。そして成長するにつれて、「昨日までできなかったこと」が一つひとつできるようになっていきます。初めて言葉を話した日、初めて自分の足で立った日。その大きな一歩を一番近くで見守り、感動を共に分かち合えること自体が、親にとって何よりの宝物です。仕事で疲れて帰った日、小さな手でぎゅっと抱きしめてくれたり、「お母さん、だいすき」と素直な言葉で励ましてくれたりするとき、胸がキュッとなって幸せな気持ちがいっぱいです。「この子がいるから、また明日も頑張れる」。その瞬間にもらうエネルギーは、どんな言葉でも表せないほど大きく、すでに一生分の恩をもらっていると感じるのです。

さらに子育ては、私の人生の視野をぐっと広げ、一つの角度からでは見えなかった豊かさを教えてくれました。子どもがいなければ出会わなかった人たち、触れることのなかった地域との繋がり、そして人の温かさ。例えば、子どもが 10 か月で保育園に入ったばかりの頃、何度も熱を出して病院へ駆け込み、会社にも申し訳なく途方に暮れていた私に、看護師さんが「お仕事辞めないでね、大変なのは今だけだから」と優しく声をかけてくれました。そうした温かい言葉に出会うたび世界が以前よりずっと優しく自分の子育てをサポートしてくれている沢山の方々がいる温かい場所に思えるようになりました。

子育ては大変なことも多いですが、人生をこれほどまでに愛おしく豊かに彩ってくれるかけがえのない体験です。日々頑張っている同世代のママたち、そしてこれからお母さんになる女性たちと、この愛おしい日々をこれからも一緒に歩んでいけたら嬉しいです。

世界が美しいのは、その多様性と豊かさにある

ジャン・ミャオ

アジ風歴 11 年 清華大学院・架け橋 G 出身

在北京 北京理工大学教授

元 I メイト 富平 茂さん



人の固定観念というものは、生まれ持った性格、育った環境、出会った人々、そして自ら経験した出来事など、さまざまな要因が複雑に絡み合って形作られるものだ。それらすべてが、その人のものの見方や価値観に深く影響を与える。しかし私自身については、さほど多くの「固定された」こだわりを持っていないように思う。むしろ、目の前にあるありのままの事象を尊重したいと思っている。どの文化にも、それが形成されるに至った固有の背景や意味があると信じている。おそらくこの考え方そのものが、私自身の経験や異文化交流を通じて培われた、ひとつの「固定観念」なのかもしれない。

自分は恵まれていると思う。好きなことをして、優しくて温かい人々に会い、この世界からのたくさんの善意を感じながら生きてきた。だから私は、本質的にこの世界を信じたいと思う。しかしその一方で、世界は決して完璧ではなく、多くの問題を抱えていることもよくわかっている。文化や環境が異なれば、フェミニズムを理解できない人もいれば、同性愛者コミュニティを受け入れられない人もいる。いわゆる「マイノリティ」に対して、距離を置いたり拒絶したりする人も少なくない。「類は友を呼ぶ」という言葉通り、人は自然と自分と価値観の近い者同士で集まりたがる。それが心地よいからだ。だが、だからといって、自分と異なる者を「異端」扱いしてはいけない。また逆に、自分が多数派とは違う立場にいるときにも、その違いをもって自分自身を否定する必要はない。

私は、戦争や災害、差別や貧困、そして自由を奪われるという経験をしたことがない。その点でも、自分は幸運だと思う。しかしこうした苦しみは、今この瞬間も世界のどこかで、確かに誰かが負っている現実でもある。メディアの持つ力は大きい。普段は目に触れにくい現実を私たちに見せ、問題の存在を認識させ、変えていくための行動を促し、世界にほんの少しでも優しさを加えようという気持ちにさせてくれる。現代は、情報がほぼ無境界に流通する時代だ。毎日、膨大な情報が私たちの意識に流れ込んでくる。そんな中で、何よりも大切だと思うのは、自分自身の判断力を持つことだ。考え方は違っても、立場が異なっても、心の奥底に最低限の「善」が残っている限り、不幸な出来事はもう少しだけ減らせるはずだと信じている。

異文化交流が私に与えてくれた最大の力は、この世界を「理解し、尊重する」ことだと思う。そして私の願いは、ずっと変わらない——世界が平和であること。思想に国境がないこと。すべての人が自由であり、それぞれが自分らしい喜びを見つけられること。

ひとりの人間として向き合うことの大切さ

ジンダー・ペッパイリン

アジ風歴 12 年 タマサート大学出身

日系企業勤務（通訳）

タイ・パトゥムターニー県在住

元 I メイト 含本 一雄さん



アジ風の皆さん、お久しぶりです。アジ風 OG のジンダー・ペッパイリンです。現在、私はタイにある日系企業で通訳として毎日楽しく働いています。今回のテーマについてですが、私にとって I メイトの皆さんとの出会いは、自分の中の「固定観念」を打ち破る本当に大切な経験だったと思います。

プログラムに参加する前、私はメディアや SNS の影響で「日本人は真面目すぎて、少し近寄りがたい」というイメージを持っていました。でも、実際に I メイトの方々と一緒に時間を過ごした中で、その考えはすっかり変わりました。

私の I メイトである含本さんをはじめ、皆さんと一緒にご飯を食べたり、何気ないおしゃべりをしたりする中で、日本人の温かさやユーモア、そして親しみやすさをたくさん感じることができました。また、含本さんはただ優しいだけの人ではありませんでした（笑）。私が何か間違ったことをした時や、勘違いをしている時は、いつもきちんと注意してくれました。表面的な優しさだけでなく、私のために本音で注意してくれたからこそ、自分自身のダメなところを直すことができたと深く感謝しています。私にとって、含本さんは時に厳しく、でもいつも温かく見守ってくれる「日本のお父さん」のような存在です。

今は SNS で様々な情報が溢れていて、そこから偏見や固定観念が生まれやすい時代だと思います。だからこそ、国籍や文化の壁を越えて、直接顔を合わせて一人の人間として向き合うことがどれほど重要かを感じています。自分が実際に見て、聞いて、感じたことだけが、本当の理解になると気づきました。嬉しいことに、大学を卒業してから何年も経った今でも、含本さんとは定期的に会っています（実は今月・8月も会う予定です！笑）。学生時代のプログラムだけで終わらず、時間が経つほどもっと仲良くなれているこの関係は、私にとってかけがえのない宝物です。

I メイトとの交流で学んだ「違いを認め合い、尊重する」という姿勢は、今の仕事や人間関係でも私の大きな支えになっています。これからもこの気づきを大切にして、タイと日本の架け橋になれるよう頑張っていきたいです。

最後になりますが、アジ風の皆さんのますますのご発展を心よりお祈り申し上げます！

夢はアジアの架け橋に

レー・ゴック・トゥイ

アジ風歴 12 年 貿易大学出身

早稲田大学大学院修士課程 7 回アジ風奨学生

ハノイ在住 日本企業勤務

元 I メイト 古海 正子さん



私が I メイト交流に参加したのは、2014 年、外国貿易大学の 2 年生の時だった。2016 年 2 月にはアジ風のおかげでタイのタマサート大学のイベントに参加し、同年 9 月から大阪へ交換留学した。11 月には東京でアジ風のイベントに参加するため、大阪から東京まで初めて新幹線に乗った。今振り返ると、これらは学生時代にアジ風からもらった、とても貴重な経験だった。

2019 年に日本で働き始めてからはアジ風正会員となり、さまざまな交流会を通して、多くの人と出会った。2024 年に仕事を辞めて大学院へ進学した際には、I メイトの奨学金のおかげで、研究に集中することができた。論文で悩んだ時には会員の方々からアドバイスをもらい、古海さんには日本語のチェックや発表の練習までしていただいた。アジ風は私の人生の節目でいつも新しい出会いと支えを与えてくれた。この交流を通して、自分自身の固定観念にも気づいた。

日本へ行く前、私は「日本では女性は結婚すると仕事を続けることが難しい」というイメージを持っていた。しかし、日本で生活する中で、アジ風の女性会員や大学院の女性の先生方が、それぞれの分野でキャリアを築き、活躍している姿を見た。その経験から、女性も自分の力でキャリアを築き、リーダーとして活躍できるのだと実感した。そして、自分ももっと挑戦してみたいと思うようになった。

また、さまざまな国や文化、価値観を持つ人たちとの交流を通して、「自分と違う＝間違っている」わけではないことも学んだ。意見が違う時には、正しいか間違っているかを決める前に、まず相手の考えを理解しようと思うようになった。

最近、日本のメディアでは、外国人全般やベトナム人について否定的な報道を目にすることがある。この否定的なイメージについて日本人全体を変えることは難しいが、私を知っている人に「ベトナム人にもこういう人がいる」と思ってもらえたら、それだけでも意味があると思う。現在はベトナムに戻り、東レベトナム（株）でプロジェクトマネージャーとして業務改善や DX に携わっている。これまで日本やアジ風活動から学んだことを今度はベトナムで生かし、これからも日本とベトナムの架け橋になりたい。

故森郁子さん（元 I メイト）と私の深い交流を、次の世代にも

ニムサケン・スットプラターナー（リボン）

アジ風歴 17 年 タマサート大学大学院出身

タイ ナコンプラートム県在住 大学講師



私は毎年日本を訪れるようにしています。今年は5月に、夫とお腹の赤ちゃんと一緒に東京とその周辺を訪れました。

初めて、妊娠中に海外旅行を経験しました。周りの人に妊娠していることを知ってもらうため、タイのANAでマタニティマークをもらい、バッグの目立つところにつけました。また、JRの案内所でもう一つマークをもらい、前から後ろからも見えるようにつけました。席を譲っていただくこともありましたが、ときには優先席の前に立っていても、周囲の人に気づいてもらえないこともありました。この経験を通して、人々のさまざまな反応に

も触れることができました。

今回の訪日の主な目的は、「日本人の交通安全意識」に関する研究調査でした。アジ風の皆様にもアンケート調査への協力をお願いしました。調査を通して特に印象に残ったのは、日本では子どもの頃から交通安全教育が行われていることです。小学校などでは、信号の見方や横断歩道の渡り方などを実際に体験しながら学ぶ機会があります。このような教育の積み重ねが、人々の交通安全意識につながっているのではないかと感じました。日本の方法をそのままタイに取り入れるのではなく、タイ社会に合った方法を考え、応用していきたいと思っています。

一方、今回の滞在では、アジ風の役員や会員の方々にも東京でお会いすることができました。皆様に温かく迎えていただき、本当にうれしかったです。私は大学院生の頃から I メイトであった故森郁子さんと交流を続けてきて、日本語や日本文化についてさまざまなことを教えていただきました。次に、マヒドン大学の学生たちにも日本の方々との交流する機会を作っていきたいと期待しています。森さんと私のようなすばらしい出会いと交流が次の世代にも広がっていけばうれしいです。

また、最近では会員の松野芳夫さんと一緒に日本のニュースについて学び、ニュースの背景や日本社会のさまざまな側面について詳しく説明していただいています。このような異文化交流を通して、自分とは異なる考え方に触れ、物事をさまざまな角度から見るができるようになりました。

私にとって異文化交流とは、外国の文化を知ることだけではありません。人との出会いや交流を通して、自分自身の考え方や世界の見方を広げることもあります。これからも日本とタイをつなぐ交流を大切に、その経験を学生たちにも伝えていきたいと思っています。

人と人との信頼と関係性を築きたい

千歩 和人

会員歴 4 年



2022 年にアジ風に入会。以来、仕事の傍ら出来る範囲で 4 大学の I メイトと交流を続けています。最初は e メールでの日本語文章の手直しが中心でしたが、最近は Line や Zoom を使ってオンラインで日本語の会話を手助けすることに比重が移って来ています。

一部の I メイトとはご本人の日本留学前の論文提出時に一時期集中的に支援をする機会があったり、交流校訪問に参加して現地で I メイトに初めてお会いして行動を共にしたことで、急速に距離が縮まりその後の交流も以前よりも親近感を伴ってやり易くなりました。

やはり人と人なのできっかけ次第で交流の密度も急に進化するものだと感じています。日頃の交流を通じて意識することとして、単に日本語学習を通じてお互いの国の文化、歴史、生活習慣などについて情報共有してだけでなく、さらにその文化や考え方の違いについての相互理解、意見交換まで深化させていき、ひいてはその先 I メイトが卒業してからも繋がりを保てるような“人と人との信頼・関係性”を築いていければと思っています。

日本人会員の諸先輩方から、I メイトの結婚式に招待されたとか、家族ぐるみでお付き合いをされておられるようなことをお聴きすることもあり、自分も将来そのような関係性を築ければいいなと感じています。

アジアにおける日本の位置づけは私が学生の頃に比べるとかなり変化していますが、そんな中でも日本・日本語に興味を持って一生懸命に勉強されている I メイトに接していると、自然と応援したくなります。I メイト交流という草の根交流を通じて、少しでも日本とアジアの国々との国際親善、アジ風の理念である多文化共生に繋がればと思っています。

アジアの若者との交流で得る刺激

大石 純

会員歴 5 年



＜左端 大石さん、中央 トーイさん＞

I メイト交流の楽しみは、世代も文化も違う人から得る新しい知識と刺激だと思う。

私の I メイト交流として紹介いただいた方は全部で 7 人だが、学生の希望でやっているボランティア活動なので、こちらから一回返事をした後に返事が返ってこない人はほっておくことにしており、そのまま関係が切れてしまうことが多い。その中で、しっかりと返事をしてくれて、関係が続いている人とは、

密な付き合いができていていると思っている。

タマサート大学のアーンさんは、瞑想クラブに所属し、瞑想の合宿まで参加している。日本でも、マインドフルネスが盛んであるが、若い人がそこまで瞑想に熱心に取り組んでいると聞いて、感心している。最近は彼女からアドバイスをもらいながら、自分も短時間のマインドフルネスを始めている。

インドネシアは昔駐在した経験があり、今も注目している国であるが、パジャジャラン大学のハマドさんには、インドネシアの新首都を現地の人がどうみているのか、バンドンージャカルタ間の新幹線の乗り心地はどうかなど、日本にいと分からない実態を聞くことができおり、話をしながら、昔のインドネシア駐在を懐かしんでいる。

自分にとって一番の思い出は、私の最初のIメイトであるタマサート大学のトーイさんである。アジ風の日本語スピーチコンテストに優勝して日本に来たり、北九州大学に留学したこともあったので、日本でお会いすることも多かったが、非常にアクティブな女性で、会うといつも刺激をもらえる人である。残念ながら、日本での就職ができず、留学後は、タイに帰国したが、日系の企業に勤めながら、日本の漫画の翻訳もやっているようで、相変わらずアクティブである。日本人の彼氏と遠距離恋愛をしており、恋の行方がどうなるかと思っていたが、今は彼がタイに留学にきて、仲良くやっているようである。恋愛の話を聞くと、遠い昔の自分の若い頃を思い出して楽しい気持ちになれるので、それが一番の刺激かもしれないと思う。

異文化交流は私の主軸

石橋 順子

会員歴 10 年



私は子育てが始まった時からひたすら異文化交流活動を行ってきました。愛知県に住んでいた頃、赤ん坊をおんぶして電車に乗り名古屋駅までゲストを迎えに行ったこともあります。その頃は公的な研修生や団体などにホームステイを提供していました。婦人派遣団の一員としてオーストラリアへ行った時は、政府女性局でセクハラの問題が行われていました。日本では男女共同参画の時代です。高校の教師としてテキサス州の姉妹校へ高校生を引率したことも。これらはすべて英語を通じてコミュニケーションを図り、海外の情報を得ようという事業でした。

「アジアの新しい風」は、対象がアジアで言語が日本語だったことがとても新鮮でした。アジアの学生が真剣に日本語に取り組んでいる姿に感動し、仲良くするのは近い国からではないかと気づかされました。日本語をマスターし就職していく若者たちがまぶしく感じられました。

数年来、全国通訳案内士として日本の文化、自然などの良さをゲストに紹介しようと腐心しています。異文化交流という軸は変わりませんが、その手段や視点が様々あることがわかり、生身の人間が付き合ってこそ分かり合える部分が大切だと実感しています。

人生の先輩として誠実に向き合う

含本 一雄

会員歴 13 年



「アジ風」のメンバーとして I メイト交流を始めて 12 年。これまでタイ、ベトナム、中国の学生たちと向き合ってきました。スタートにあたり心に決めたのは「誠実であること」「真剣に向き合うこと」「愛情を持って取り組むこと」「わかりやすいこと」でした。自分の人生経験をうまく伝え、I メイト達の素晴らしい未来の設計図創りの役に立ちたいと考えたのです。現在も OG2 名、現役 2 名の計 4 名と交流を続けています。

最初の交流相手の一人だったタイの ジンダー・ペッパイリン（愛称：リ）さんに初めて会った時、きらきらと目を輝かせ、純粹で、この交流を心から楽しみにしていたようでした。一生懸命日本語でしゃべろうと努める姿、そして漢字圏でない学生さんにとって「N1」の壁があり、私自身も試験問題を解いて課題を一緒に考え、励ましながら無事合格を果たされたことは忘れられない思い出です。また、日本の文化を理解してもらうため、自ら体験した初詣や節分の写真を送り、留学中には直接会って食事をしたり、京都案内や自宅に招いたりしてリラックスできる機会を多く作りました。

この交流を通じて私自身、多くの「気づき」と学びを得ました。元々、偏見や固定観念はなかったのですが、国や言葉の違いに関わらず、「人と人として、互いを尊重しあい、人生の先輩としてどう向き合うか」が本質であるということかなと思います。また、I メイトから教わった最新の音楽やアニメに触れることで新しい世界観が広がり、73 歳の私にとって若々しさと元気の源になっています。

これまでに交流した I メイト学生 4 名の親にお会いし、「よろしくお願いします」と感謝の言葉をいただきました。その言葉に重い責任を感じると同時に、国や年齢を超えて相手の身になってどうすれば為になるのか、新鮮な気持ちで楽しみながら、真剣に向き合うことの大切さを実感しています。

先日、最も新しい I メイトのガームさんから「これからも交流を増やしてください。I メイトになれて本当に良かった！」と言われました。この気づきを大切に、これからも新規の交流を続けたいし、これまでの I メイトとも可能な限り交流を続けていきたいと思っています。

時代は「文章の添削」から「会話のスキルアップ」へ

斎藤 利治

会員歴 13 年



I メイト交流に参加して 13 年になりますが、クジ運に見放されているのか、これまでのところ、卒業まで完走（2 年間）出来たのは 1 人だけです。初めてのマッチングで I メイトになった清華大学の学生は、交流開始早々、法学部へ転部してしまい、止む無く交流を解消する始末。これがトラウマになったわけでもありませんが、以降、マッチングのご案内を頂いても、喜び勇んで…とはならないのが残念です。昨年秋からスタートした現在の I メイトとの交流も、学生からの希望で解消するまでには至っていませんが、この春以降の交流は途絶えたままです。

ところで、私が初めて参加した当初の I メイト交流では「日本語の添削」に重点が置かれ、大学に提出するレポートなどの加筆・修正に汗を掻いたことも度々でした。ところが、近年の翻訳アプリの普及により状況は一変し、第一弾で送られてくる挨拶文も、まったく手を入れる必要がないほどの完璧な日本語で、これには驚くばかり。翻訳アプリのコピペにも困ったものですが、時代と共に本来の趣旨である『日本語の添削指導』の必要性が薄れてきているのかも知れません。

ただ、これで I メイト交流の意義そのものが失われたとは思いません。むしろ最近では、独学でのスキルアップが難しい日本語会話の練習をサポートするという、新たな活動へのニーズが生まれています。その意味でも、オンラインによる『おしゃべりの場』は、まさにそのツールとしては最適なイベントであり、今後、その役割はますます大きくなるに違いありません。私もこれまで何度か参加させていただきましたが、これからも会話練習のお役に立てればと願っています。



交流の多様化・おしゃべりの場

「ミニおしゃべりの場」はおしゃべりを楽しむ場

谷口 由紀子

貿易大学の学生から少人数での日本語会話練習の希望があり、Iメイト学生2名と日本人会員2名、計4名による練習を計画しているので協力してほしいと事務局の古海正子さんから依頼されました。2025年10月よりライングループ「ミニおしゃべりの場」が始まり、メンバーは山田稔さん、グエン・ディン・ギア・ハンさん、タン・タムさん、ゆきこの4人です。

日時はラインで相談して、google meet のリンクを学生から送ってもらいます。提案された日程で日本側の2人がそれぞれ旅行中の場合とか、学生側も予定していた日に試験が入ることもあります。ライングループのトークで柔軟に日程を変更しています。私はスマホのラインにきたリンク先をパソコンに送ってパソコンの画面から入室しています。お互いの顔が大きく見えるので便利です。

おおよそ1時間半ほどですが、最近では遊び、旅行、台風、食べ物、就職、ハノイの道路事情その他いろいろな話をしました。画面共有の機能を使って話題になっている写真、たとえば風景、珍しい花などを一緒に見ることもあります。

私にとっては「日本語で会話する練習の相手になる」というより山田さんを含めて4人でおしゃべりを楽しむ場になりました。



ハンさん

山田さん

谷口さん

タムさん

一日の終わりに楽しく交流できる大切な時間

グエン・ディン・ギア・ハン

私はこの6か月間、山田稔さん、谷口由紀子さん、そしてタン・タムさんと一緒に「ミニおしゃべりの場」のグループを続けることができ、とても光栄に思っています。私たちは毎週火曜日の夜に Google Meet で集まり、日本語で楽しく会話をしています。皆さんはお仕事やご家庭でお忙しいにもかかわらず、毎回時間を作って参加してくださり、本当に感謝しています。

会話では、日本とベトナムの文化や社会、政治、生活など、さまざまなテーマについて話し合ってきました。また、お互いの日常生活や、日本やベトナムで出かけた場所について紹介し合うこともありました。山田さんや谷口さんはいつも興味深い質問をしてくださるので、自分では

気づかなかったことについて考える機会が多く、とても勉強になりました。

これまでは、日本とベトナムのお正月の過ごし方、日本の成人の日や各地のお祭り、日本とベトナムのスポーツ、日本で話題になったクマやシカのニュースなど、幅広いテーマについて話しました。それぞれの話題から、お互いの文化や考え方を理解することができ、とても有意義な時間でした。

私にとって、このミニおしゃべりは、日本語を練習する場であるだけでなく、一日の勉強や仕事の後に楽しく交流できる大切な時間でもあります。このような温かい交流の機会をいただき、本当にうれしく思っています。これからもこのご縁を大切に、多くの方にもぜひこのような素晴らしい交流を体験していただきたいと思います。

////////////////////////////////////

日本語を通して有意義なチャットタイム

小林 俊介



ハノイ貿易大学のIメイトとのグループ会話練習を、2025年ハノイ訪問後にスタート。メンバーは、Iメイトのチュー・ティ・トゥイさん、ホアン・ティ・ハ・フオン（フォン）さん、奥山正昭さん寿子さん夫妻で、月に2回程度行っている。

トゥイさんは元気で活発、少しシャイなところもある女子大生。グループ会話は、毎回テーマを決めて、それぞれが自分の考えを発言し、それに対しての質疑応答や日本語の語彙・言い方等を紹介する。テーマは日常の生活から文化や社会での人間関係(敬語他)等、多岐にわたり、お国柄の違いや、時代背景の違い、若い人の考え方等を識ることが出来、お互いに楽しく会話練習を進めている。前回は「暑さをどのように凌いでいるか」というテーマで、いろいろな話が出て来て盛り上がった。エアコン・扇風機・アイスクリーム・風鈴・等のほかに、夜の墓場散歩やお化け屋敷に怪談一ろくろ首の紹介で大笑い。

最初のころは慣れないところもあったが、会を進めるうちに、テーマに対して準備もすることにより、日本語を通して有意義なチャットタイムになってきた。今後、卒業・就職を迎えるメンバーだが、時間の融通が許せる限り、継続していきたいと考えている。

世代と国を越えて、楽しくおしゃべり

チュー・ティ・トゥイ

小林俊介さんと一緒に小グループでの会話練習を始めて、しばらくになります。月に2回ほど、フォンさん、奥山さんご夫妻、小林さんと、日常生活や文化、社会などについて日本語で話しています。



毎回テーマを決め、それぞれの考えや経験を話します。ほかの人の意見を聞くことで、新しい日本語表現を覚えるだけでなく、日本とベトナムの文化や考え方の違いを知ることができます。同じテーマでもさまざまな意見があり、毎回新しい発見があります。

最初は日本語で自分の考えを伝えることに緊張していましたが、皆さんが温かく聞いてくださるので、今では気軽に話せるようになりました。小林さんから自然な日本語を教えていただいたり、皆さんの経験を聞いたりすることも楽しみの一つです。

また、交換留学中には名古屋から大阪まで小林さんに会いに行きました。帰国後、私が参加したビジネスアイデアコンテストの決勝大会にも応援に来てくださり、とても嬉しかったです。今もメッセージや会話練習を通して交流を続けています。

これから卒業や就職を迎えますが、これまでのつながりを大切にしながら、これからも皆さんと楽しく日本語で話す時間を続けていきたいです。

今も今後も楽しく、少しでも役に立つように

富平 茂



2026年5月に古海正子さんよりパジャジャラン大学の学生が日本語会話練習を希望していると連絡がありました。希望しているのは古海さんのIメイトのラファエラ・アンジェネット・プトリ・シレガル（ラア）さんと、ラアさんに誘われた私のIメイトのカリスタ・アルデリア・ファウスティナ（ティタ）さん。2人は親友とのことで、古海さんを含めて4名でラインを使用した会話練習を設定したいとのことで、私としては2回目の会話練習ですが、快諾しました。

一昔前まではIメイト交流というと、学生の書いたメールを添削することが主体でしたが、最近の翻訳アプリやAIの発展の影響で添削の必要性が減っていることにより、学生の希望も異文化交流や日本語会話に変化しているようです。

6月初めに1回目を開催し学生の希望を丁寧に聞き、開催回数は基本的に隔週で参加できる人数で実施することにしました。学生には個々に試験など多忙な時期があります。特に大きなイベントとして2か月に及ぶ地域貢献活動への参加があり、バンドンから遠く離れたネットも繋がりにくい辺境地域へ行くとのことでした。ティタさんは今年初めに既に参加済でしたが、ラアさんは7月から行くとのことでした。

このような事情もあり、学生1人に日本人2人の開催がその後多くなりましたが、学生の話や希望を聞くことに徹すると、順調に会話を続けられています。特に、2人とも日本での就職を希望していること、JLPTの昇級受験を予定していることを知り、協力できるように努めています。

ティタさんもラアさんもとても真面目で熱心な学生です。勉強中の彼女達の日本語力向上を願い、学生たちの要望に聞く耳を持って臨機応変に対応し、少しでも日本語会話力の向上に役立てばと思っています。4人での会話は今も今後も楽しく、学生達に少しでも役に立つように進められたらと考えています。

日本人との初めてのドキドキ会話

カリスタ・アルデリア・ファウスティナ（愛称：ティタ）



2026年6月4日、富平茂さん、古海正子さんや、ラファエラ・アンジェネット・プトリ・シレガル（ラア）さんと初めてLINEで会話練習をしました。これは日本人と直接日本語で話すのは初めてだったため、とても緊張しましたが、みなさんが優しく話してくださり安心しました。言葉に迷ったときには、富平さんも古海さんはいつも待ってくださり、自然な日本語を教えてくださいました。

実際に会話することで、教科書だけでは学びにくい自然な表現や、自分では気付かなかった間違いを知ることができました。会話練習では、ラアさんと私がした大学の地域貢献活動、高尾山の話、インドネシアの食べ物など、いろいろな話をとても楽しい時間を過ごしました。また、将来の仕事や日本語能力試験N2についてもアドバイスをいただきました。

この活動を通して、相手の話を集中して聞き、内容を理解する力が伸びたと感じています。特に聴解の練習として、とても役に立ちました。



日タイ文化交流を終えて

タマサート大学准教授

元 I メイトコーディネーター アジ風顧問

タサニー・メーターピシット



アジ風とタークロン市の文化交流は、私にとって忘れることのできない貴重な経験となりました。私はタイ側と日本側をつなぐコーディネーターとして準備や連絡調整を担当し、参加者の皆さんに楽しい時間を過ごしていただけるよう努めました。その一方で、多くの責任と不安も感じていました。

昨年、日本の皆さんがタイを訪問された際は、学生との交流を予定していましたが、学校の休暇期間と重なったため実現できませんでした。その代わりに地域の市民、特に高齢者の方々との文化交流を行い、温かい歓迎を受けました。言葉の壁を越えて笑顔があふれる交流となり、人と人とのつながりの大切さを改めて実感しました。

半年後には、今度はタイ側の団体が日本を訪問しました。日本側の受け入れ人数は 12 名程度と伺っていたため、約 40 名の訪問団を迎えていただくことにご負担をおかけするのではないかと心配していました。しかし、日本側の皆様の温かいお迎えと、両国の参加者による丁寧な準備のおかげで、交流は終始和やかな雰囲気の中で進みました。

日本側がお茶や和菓子、日本の歌で歓迎してくださり、タイ側もタイ舞踊やシーフードソース作りで応えました。互いが「自分たちの文化を紹介したい」という思いを持ち寄ったことで、単なる催しではなく、心と心が通い合う交流の時間になったと感じています。

特に印象に残っているのは、タイのシーフードソース作りを紹介したこと。生の唐辛子などの材料や調理器具を日本で準備できるか心配でしたが、旅行会社の皆様のご協力と日本側の皆様の温かいご理解のおかげで実施することができ、タイの食文化を無事に紹介できたことを大変うれしく思っています。

また、昼食のお弁当については、今でも心に残る出来事があります。日本側に負担をかけたくないという思いからさまざまな方法を考えましたが、結果としてタイ側が選んだお弁当を皆さんに召し上がっていただきました。今振り返ると、日本を訪れた参加者には日本ならではの食文化も体験してもらえたら、さらに良かったのではないかと感じています。この経験を通して、文化交流とは相手を思いやる気持ちと、お互いの文化を尊重する姿勢によって成り立つものであることを改めて学びました。

交流後には、日本の皆様の誠意あるおもてなしや、帰国の日まで見送りに来てくださったことへの感謝の声タイ側の参加者から数多く寄せられました。その言葉を聞き、橋渡し役として今回の交流に携われたことを心から幸せに思います。この交流をきっかけに築かれた絆が、草の根の交流、そして一人ひとりの友情へと発展し、日タイ両国の友好がさらに深まることを心より願っています。

地域をつなぐ文化交流が育む日タイの新たな絆

タマサート大学

東アジア研究所 研究・学術サービス部門長

ワンニサー・ワイチャイー



タマサート大学東アジア研究所 研究・学術サービス部門長のワンニサーと申します。このたび日本のNPO法人「アジアの新しい風」とタイ・パトゥムターニー県タークロン市による日タイ文化交流事業のコーディネートを担当できたことを大変嬉しく思います。

これまで両者の交流は、タマサート大学 I メイトプログラムの学生や、東アジア研究所の学術交流協定校を中心に行われ、文化交流を通じて相互理解を深めてきました。

今回は、その交流を地域社会へと広げ、両国の高齢者が人生で培った知恵や伝統文化を分かち合い、互いに学びあう貴重な機会となりました。言葉は十分に通じなくても、笑顔や思いやりによって心を通わせる姿は、地域に根ざした交流こそが日タイ友好の礎であることを実感させてくれました。

日本とタイはいずれも高齢社会を迎えています。だからこそ、高齢者同士が学び合い、生きがいを見出せる交流の場には大きな意義があります。

最後に、本事業にご協力くださったNPO法人「アジアの新しい風」の皆様に関心より感謝申し上げます。この交流が持続可能な地域連携のモデルとなり、両国の友好と地域社会の発展に寄与することを心より願っています。

心温まる出会いに感謝

タイ・タークロン市訪問団代表

カンラヤラット・トーンロン



今回の旅の目的である文化交流イベントは、大きなトラブルもなく、最後まで無事に終えることができました。自分の名前の書き方を学んだり、日本語の新しい言葉をたくさん覚えたりと、多くの貴重な経験をすることができ、皆さんとの絆もさらに深まりました。今回の交流を通して改めて感じたのは、この日本人グループの皆さんの誠意と温かい心です。歓迎してくださったことはもちろん、帰国の日まで見送りに来てくださった姿からも、その優しさが強く伝わってきました。この素晴らしい出会いと時間に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

五感で感じた交流会の思い出

正会員 戸田 敦



6月5日に東京で交流会があると伺い、昨年10月にタイの皆様と過ごした楽しい思い出が蘇り、愛媛県西条市から上京することになりました。当日は九段協会で浴衣に着替え、準備を整えてアジ風の皆様とタークローン市の皆さんを待ちました。バスからタイの民族衣装を纏った皆様が次々と降りてこられる光景は圧巻で、その瞬間から胸が高鳴りました。

交流会では、記念写真や挨拶、日本文化紹介のクイズ、日本のお菓子やお茶、歌などを通じて和やかな時間が流れました。タイの皆様からは料理紹介や踊りの披露があり、ジェスチャーやスマホアプリを使った会話、共に踊り、食べるなど、五感を使った交流が続きました。言葉を越えたやり取りの中で、ほのかな高揚感と温かな余韻が心に残り、日本とタイが確かにつながっている感覚が芽生えました。

多文化共生や多様性の力とは、こうして五感で感じ取るものだとして深く実感しました。愛媛に戻った今も、その心持ちは続いています。今回の交流の機会をいただき、心より感謝申し上げます。



＜皆さん民族衣装で会場へ＞



＜歓迎 タークロン市のみなさん＞



＜礼拝堂で
タークロン市の皆さん＞



＜タイの民族舞踊＞



＜市長・副市長と
アジ風メンバー＞



＜鈴木さんのウクレレ伴奏で日本の歌を披露＞

編集後記

主に2部の「Iメイト交流と私の気づき」の編集を担当しました。この副題はもともと奥山編集長の提案「無意識の思い込みと偏見」だったのですが、編集会議で少しトーンダウンして「私の気づき」と変わりました。

OG学生たちの多くが「多文化共生とは必ずしも近づいて共感を求めるのではなく、違いを認めあい、学び合うこと」という素晴らしい気づきに言及し、若者の感性は「日本人に対するステレオタイプがIメイト交流によって崩されていく」ことを肯定的に捉えています。一方で会員は、歳を経て情報量が多いせいか、若者の感性ほどの顕著な変化は余り感じ取れないように受け取れます。

自分自身はどうだったか省みると、長く西洋志向であったこと、アジアの後進性ばかりに注目していたことなどに気づき、アジ風を運営していく中で瞳目の自省は多々ありました。多文化共生は違いを受容することから始まります。そして後、アジアに新しい風を吹き込みたいという願いを強く持ち続け、設立目的の「平和を希求する」目標に向かって、微力ながらも草の根の相互理解活動に寄与していきたいと願っています。

上 高子

アジ風に入会して9年目、今回『別冊Iメイト便り』の編集作業に加えて頂けることになり、身の引き締まる思いがした。編集の過程で、深く共感したり、今後の参考となったりする原稿に触れ、交流してきたIメイトたちの顔が脳裏に浮かんた。

SNS、オンラインによる会話練習、AIによる翻訳機能の利用など、ここ数年でIメイト交流も大きく様変わりしてきたが、私は主にメールでの交流をしてきた。毎回のメールを、異国で日本語を学習する学生に思いを馳せながら読むと、言葉の一つ一つに重みを感じる。日常生活から始まり、自分の将来、悩みなどの共有から、いつしか心の奥深く流れるようなこころの交流となってきた気がする。

このような活動ができるのは平和があるから。そして現在の先行き不透明な世界を少しでも明るくしていくためには、こういった草の根活動が自分のできる最良の方法であると信じている。今回の編集作業を通じて、その思いを改めて確認する機会をいただけたことに、深く感謝申し上げます。

小林 玲子

学生の意識調査で「Iメイト交流は環境」の文言を見つけ驚いた。「勉強になる」「楽しい」「貴重な経験」はさもありなんと思うが、そうかもう学生には環境なのかと、言い得て妙とうなずいた。スマホはすでに日常の一部で身の一つ。おしゃべりの場で「スマホをどれぐらい使うの」と問うと、一日中一年中とくたたくなく答える学生たちにはまさに環境なのだろう。宇宙環境、社会環境、生活環境。小さくいえば、一人ひとりの持ち合やす環境の中にIメイト交流はある。なんと素晴らしいことだろう。

識字率がほとんどなかった万葉時代の民の歌はすべて口伝口誦である。文字によるeメール交流から多岐にわたるツールでの会話交流に比重が移りつつある今は、先祖返りかもしれぬ。

変わることを前進ととらえ「変化」は「未来」であると信じ、Iメイト交流の豊かでより良き未来が築かれることを言祝ぎたい。

『別冊』22号を掌に受け読んでくださるみな様に、制作を引き受けてくださったPCC大洋・岡吉明さまに、こころよりお礼申し上げます。

原谷 洋美

M E M O

別冊 Iメイト便り 第22号

「Iメイト交流の愉しみ」

特集ーIメイト交流と私の気づきー

☐ 発行日 2026年9月20日

☐ 発行者 NPO法人

アジアの新しい風

〒154-0016

東京都世田谷区弦巻2-18-22-414

H P : <http://www.npo-asia.org>

E-mail : new-wind2006@npo-asia.org

☐ 制 作 PCC 大洋
